

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**



#6 LMM

PATENT APPLICATION

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

In re Application of

Mitsuo YASUSHI, et al.

Appln. No.: 09/961,268

Group Art Unit: 2152

Confirmation No.: 8047

Examiner: Not Yet Assigned

Filed: September 25, 2001

For: DATA COMMUNICATION SYSTEM

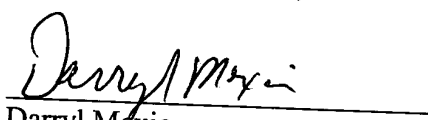
SUBMISSION OF PRIORITY DOCUMENT

Commissioner for Patents
Washington, D.C. 20231

Sir:

Submitted herewith is one (1) certified copy of the priority document on which a claim to priority was made under 35 U.S.C. § 119. The Examiner is respectfully requested to acknowledge receipt of said priority document.

Respectfully submitted,


Darryl Mexic
Registration No. 23,063

SUGHRUE MION, PLLC
2100 Pennsylvania Avenue, N.W.
Washington, D.C. 20037-3213
Telephone: (202) 293-7060
Facsimile: (202) 293-7860

Enclosures: Japan 2000-291128
DM/plr
Date: December 18, 2001



日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日

Date of Application:

2000年 9月25日

出 願 番 号

Application Number:

特願2000-291128

出 願 人

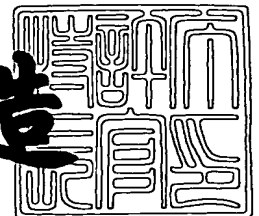
Applicant(s):

パイオニア株式会社

2001年 8月 3日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Japan Patent Office

及 川 耕 造



出証番号 出証特2001-3069044

【書類名】 特許願

【整理番号】 55P0295

【提出日】 平成12年 9月25日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 H04L 12/00

【発明の名称】 データ通信システム

【請求項の数】 9

【発明者】

【住所又は居所】 埼玉県鶴ヶ島市富士見6丁目1番1号 パイオニア株式会社 総合研究所内

【氏名】 安士 光男

【発明者】

【住所又は居所】 埼玉県鶴ヶ島市富士見6丁目1番1号 パイオニア株式会社 総合研究所内

【氏名】 柳平 雅俊

【特許出願人】

【識別番号】 000005016

【氏名又は名称】 パイオニア株式会社

【代理人】

【識別番号】 100079119

【弁理士】

【氏名又は名称】 藤村 元彦

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 016469

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

特 2 0 0 0 - 2 9 1 1 2 8

【包括委任状番号】 9006557

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 データ通信システム

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 データベースを形成した第 1 記憶装置を有するサーバと、前記サーバとネットワーク回線を介して接続可能にされた複数のクライアント装置とを備えたデータ通信システムであって、

前記複数のクライアント装置各々は、データ読出要求を前記サーバに対して送信する送信手段を有し、

前記サーバは、前記複数のクライアント装置各々に対応してアクセス可能なデータの種類の示すアクセス権情報を予め保持したアクセス権保持手段と、

前記送信手段から前記ネットワーク回線を介して送られて来たデータ読出要求を受信すると、前記複数のクライアント装置のうちのその受信されたデータ読出要求を送信した 1 のクライアント装置を識別する装置識別手段と、

前記受信されたデータ読出要求に対応したデータが前記 1 のクライアント装置からアクセス可能な種類のデータであるか否かを前記アクセス権保持手段に保持されたアクセス権情報に応じて判別する判別手段と、

前記判別手段の判別結果がアクセス可能な種類のデータならば、前記 1 のクライアント装置に対して前記第 1 記憶装置のデータベース中の前記受信されたデータ読出要求に対応したデータへのアクセスを許可する手段と、を有することを特徴とするデータ通信システム。

【請求項 2】 前記装置識別手段は、ユーザ識別コード及びパスワードを前記 1 のクライアント装置に要求し、前記 1 のクライアント装置から送られて来たユーザ識別コード及びパスワードに応じて前記 1 のクライアント装置を識別することを特徴とする請求項 1 記載のデータ通信システム。

【請求項 3】 データベースを形成した第 1 記憶装置を有するサーバと、前記サーバとネットワーク回線を介して接続可能にされた複数のクライアント装置とを備えたデータ通信システムであって、

前記複数のクライアント装置各々は、データ読出要求を前記サーバに対して送信する送信手段を有し、

前記サーバは、前記データベースを利用する複数のユーザに対するアクセス権を保有するデータの種類の示すアクセス権情報を予め保持したアクセス権保持手段と、

前記送信手段から前記ネットワーク回線を介して送られて来たデータ読出要求を受信すると、前記複数のクライアント装置のうちのその受信されたデータ読出要求を送信した 1 のクライアント装置のユーザを識別するユーザ識別手段と、

前記受信されたデータ読出要求に対応したデータが前記 1 のクライアント装置ユーザがアクセス権を保有する種類のデータであるか否かを前記アクセス権保持手段に保持されたアクセス権情報に応じて判別する判別手段と、

前記判別手段の判別結果がアクセス権を保有する種類のデータならば、前記 1 のクライアント装置に対して前記第 1 記憶装置のデータベース中の前記受信されたデータ読出要求に対応したデータへのアクセスを許可する手段と、を有することを特徴とするデータ通信システム。

【請求項 4】 前記ユーザ識別手段は、ユーザ識別コード及びパスワードを前記 1 のクライアント装置に要求し、前記 1 のクライアント装置から送られて来たユーザ識別コード及びパスワードに応じて前記 1 のクライアント装置のユーザを識別することを特徴とする請求項 3 記載のデータ通信システム。

【請求項 5】 前記複数のユーザはユーザグループ単位でアクセス権が設定されていることを特徴とする請求項 3 記載のデータ通信システム。

【請求項 6】 データベースを形成した第 1 記憶装置を有するサーバと、前記サーバとネットワーク回線を介して接続可能にされた複数のクライアント装置とを備えたデータ通信システムにおいて前記データベースへのアクセスを制限するデータベースアクセス方法であって、

前記複数のクライアント装置各々に対応してアクセス可能なデータの種類の示すアクセス権情報を前記サーバにおいて保持し、

前記ネットワーク回線を介して送られて来たデータ読出要求を前記サーバで受信すると、前記複数のクライアント装置のうちのその受信データ読出要求を送信した 1 のクライアント装置を識別し、

前記受信データ読出要求に対応したデータが前記 1 のクライアント装置からア

クセス可能な種類のデータであるか否かを前記アクセス権情報に応じて判別し、

その判別結果がアクセス可能な種類のデータならば、前記 1 のクライアント装置に対して前記第 1 記憶装置のデータベース中の前記受信データ読出要求に対応したデータへのアクセスを許可することを特徴とするデータベースアクセス方法。

【請求項 7】 データベースを形成した第 1 記憶装置を有するサーバと、前記サーバとネットワーク回線を介して接続可能にされた複数のクライアント装置とを備えたデータ通信システムにおいて前記データベースへのアクセスを制限するデータベースアクセス方法であって、

前記データベースを利用する複数のユーザに対するアクセス権を保有するデータの種類の示すアクセス権情報を前記サーバにおいて保持し、

前記ネットワーク回線を介して送られて来たデータ読出要求を受信すると、前記複数のクライアント装置のうちのその受信データ読出要求を送信した 1 のクライアント装置のユーザを識別し、

前記受信データ読出要求に対応したデータが前記 1 のクライアント装置のユーザがアクセス権を保有する種類のデータであるか否かを前記アクセス権情報に応じて判別し、

その判別結果がアクセス権を保有する種類のデータならば、前記 1 のクライアント装置に対して前記第 1 記憶装置のデータベース中の前記データ読出要求に対応したデータへのアクセスを許可することを特徴とするデータベースアクセス方法。

【請求項 8】 データベースを形成した第 1 記憶装置を有し、ネットワーク回線に接続されたサーバであって、

複数のクライアント装置各々に対応してアクセス可能なデータの種類の示すアクセス権情報を予め保持したアクセス権保持手段と、

前記ネットワーク回線を介して送られ来たデータ読出要求を受信すると、前記複数のクライアント装置のうちのその受信されたデータ読出要求を送信した 1 のクライアント装置を識別する装置識別手段と、

前記受信されたデータ読出要求に対応したデータが前記 1 のクライアント装置

からアクセス可能な種類のデータであるか否かを前記アクセス権保持手段に保持されたアクセス権情報に応じて判別する判別手段と、

前記判別手段の判別結果がアクセス可能な種類のデータならば、前記 1 のクライアント装置に対して前記第 1 記憶装置のデータベース中の前記受信されたデータ読出要求に対応したデータへのアクセスを許可する手段と、を有することを特徴とするサーバ。

【請求項 9】 データベースを形成した第 1 記憶装置を有し、ネットワーク回線に接続されたサーバであって、

前記データベースを利用する複数のユーザに対するアクセス権を保有するデータの種類の示すアクセス権情報を予め保持したアクセス権保持手段と、

前記ネットワーク回線を介して送られ来たデータ読出要求を受信すると、その受信されたデータ読出要求を送信した 1 のクライアント装置のユーザを識別するユーザ識別手段と、

前記受信されたデータ読出要求に対応したデータが前記 1 のクライアント装置ユーザがアクセス権を保有する種類のデータであるか否かを前記アクセス権保持手段に保持されたアクセス権情報に応じて判別する判別手段と、

前記判別手段の判別結果がアクセス権を保有する種類のデータならば、前記 1 のクライアント装置に対して前記第 1 記憶装置のデータベース中の前記受信されたデータ読出要求に対応したデータへのアクセスを許可する手段と、を有することを特徴とするサーバ。

【発明の詳細な説明】

【 0 0 0 1 】

【発明が属する技術分野】

本発明は、データベースを形成したサーバにクライアント装置からネットワーク回線を介してデータベースにアクセスするように構成されたデータ通信システムに関する。

【 0 0 0 2 】

【従来の技術】

車両に搭載された車載端末装置において車両に関連する運行データ等の各種デ

ータを検出して得てその各種データを記憶装置にデータベースとして記憶させる一方、車載端末装置からインターネット上のサーバとの間で無線チャンネルを介してデータ通信を行って車載端末装置の記憶装置に記憶された各種データをサーバの記憶装置にデータベースとして記憶させる通信システムが考えられている。このような通信システムにおいては、車両外部のサーバにおいて車両の状態を一括管理することができるという利点がある。また、車両に関連する各種データのいずれかのデータを必要とするクライアントは不安定な無線チャンネルを介することなくサーバにアクセスすることができ、必要なデータを取り出すことができる。

【 0 0 0 3 】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、車両に関連した各種のデータがサーバの記憶装置にはデータベースとして形成されるので、そのデータベースにアクセスすることを許可されたクライアントとしては必要な種類のデータに容易にアクセスできることが望まれている。

【 0 0 0 4 】

そこで、本発明の目的は、データベースを形成したサーバにクライアント装置からネットワーク回線を介してデータベース中の必要な種類のデータに容易にアクセスすることができるデータ通信システム、データベースアクセス方法及びサーバを提供することである。

【 0 0 0 5 】

【課題を解決するための手段】

本発明のデータ通信システムは、データベースを形成した第1記憶装置を有するサーバと、サーバとネットワーク回線を介して接続可能にされた複数のクライアント装置とを備えたデータ通信システムであって、複数のクライアント装置各々は、データ読出要求をサーバに対して送信する送信手段を有し、サーバは、複数のクライアント装置各々に対応してアクセス可能なデータの種類の示すアクセス権情報を予め保持したアクセス権保持手段と、送信手段からネットワーク回線を介して送られて来たデータ読出要求を受信すると、複数のクライアント装置の

うちのその受信されたデータ読出要求を送信した1のクライアント装置を識別する装置識別手段と、受信されたデータ読出要求に対応したデータが1のクライアント装置からアクセス可能な種類のデータであるか否かをアクセス権保持手段に保持されたアクセス権情報に応じて判別する判別手段と、判別手段の判別結果がアクセス可能な種類のデータならば、1のクライアント装置に対して第1記憶装置のデータベース中の受信されたデータ読出要求に対応したデータへのアクセスを許可する手段と、を有することを特徴としている。

【0006】

本発明のデータ通信システムは、データベースを形成した第1記憶装置を有するサーバと、サーバとネットワーク回線を介して接続可能にされた複数のクライアント装置とを備えたデータ通信システムであって、複数のクライアント装置各々は、データ読出要求をサーバに対して送信する送信手段を有し、サーバは、データベースを利用する複数のユーザに対するアクセス権を保有するデータの種類の示すアクセス権情報を予め保持したアクセス権保持手段と、送信手段からネットワーク回線を介して送られて来たデータ読出要求を受信すると、複数のクライアント装置のうちのその受信されたデータ読出要求を送信した1のクライアント装置のユーザを識別するユーザ識別手段と、受信されたデータ読出要求に対応したデータが1のクライアント装置ユーザがアクセス権を保有する種類のデータであるか否かをアクセス権保持手段に保持されたアクセス権情報に応じて判別する判別手段と、判別手段の判別結果がアクセス権を保有する種類のデータならば、1のクライアント装置に対して第1記憶装置のデータベース中の受信されたデータ読出要求に対応したデータへのアクセスを許可する手段と、を有することを特徴としている。

【0007】

本発明のデータベースアクセス方法は、データベースを形成した第1記憶装置を有するサーバと、サーバとネットワーク回線を介して接続可能にされた複数のクライアント装置とを備えたデータ通信システムにおいてデータベースへのアクセスを制限するデータベースアクセス方法であって、複数のクライアント装置各々に対応してアクセス可能なデータの種類の示すアクセス権情報をサーバにおい

て保持し、ネットワーク回線を介して送られ来たデータ読出要求をサーバで受信すると、複数のクライアント装置のうちのその受信データ読出要求を送信した1のクライアント装置を識別し、受信データ読出要求に対応したデータが1のクライアント装置からアクセス可能な種類のデータであるか否かをアクセス権情報に応じて判別し、その判別結果がアクセス可能な種類のデータならば、1のクライアント装置に対して第1記憶装置のデータベース中の受信データ読出要求に対応したデータへのアクセスを許可することを特徴としている。

【0008】

本発明のデータベースアクセス方法は、データベースを形成した第1記憶装置を有するサーバと、サーバとネットワーク回線を介して接続可能にされた複数のクライアント装置とを備えたデータ通信システムにおいてデータベースへのアクセスを制限するデータベースアクセス方法であって、データベースを利用する複数のユーザに対するアクセス権を保有するデータの種類の示すアクセス権情報をサーバにおいて保持し、ネットワーク回線を介して送られて来たデータ読出要求を受信すると、複数のクライアント装置のうちのその受信データ読出要求を送信した1のクライアント装置のユーザを識別し、受信データ読出要求に対応したデータが1のクライアント装置のユーザがアクセス権を保有する種類のデータであるか否かをアクセス権情報に応じて判別し、その判別結果がアクセス権を保有する種類のデータならば、1のクライアント装置に対して第1記憶装置のデータベース中のデータ読出要求に対応したデータへのアクセスを許可することを特徴としている。

【0009】

本発明のサーバは、データベースを形成した第1記憶装置を有し、ネットワーク回線に接続されたサーバであって、複数のクライアント装置各々に対応してアクセス可能なデータの種類の示すアクセス権情報を予め保持したアクセス権保持手段と、ネットワーク回線を介して送られ来たデータ読出要求を受信すると、複数のクライアント装置のうちのその受信されたデータ読出要求を送信した1のクライアント装置を識別する装置識別手段と、受信されたデータ読出要求に対応したデータが1のクライアント装置からアクセス可能な種類のデータであるか否か

をアクセス権保持手段に保持されたアクセス権情報に応じて判別する判別手段と、判別手段の判別結果がアクセス可能な種類のデータならば、1のクライアント装置に対して第1記憶装置のデータベース中の受信されたデータ読出要求に対応したデータへのアクセスを許可する手段と、を有することを特徴としている。

【0010】

本発明のサーバは、データベースを形成した第1記憶装置を有し、ネットワーク回線に接続されたサーバであって、データベースを利用する複数のユーザに対するアクセス権を保有するデータの種類の示すアクセス権情報を予め保持したアクセス権保持手段と、ネットワーク回線を介して送られて来たデータ読出要求を受信すると、その受信されたデータ読出要求を送信した1のクライアント装置のユーザを識別するユーザ識別手段と、受信されたデータ読出要求に対応したデータが1のクライアント装置ユーザがアクセス権を保有する種類のデータであるか否かをアクセス権保持手段に保持されたアクセス権情報に応じて判別する判別手段と、判別手段の判別結果がアクセス権を保有する種類のデータならば、1のクライアント装置に対して第1記憶装置のデータベース中の受信されたデータ読出要求に対応したデータへのアクセスを許可する手段と、を有することを特徴としている。

【0011】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施例を図面を参照しつつ詳細に説明する。

図1は本発明を適用した通信システムの構成を示している。この通信システムにおいては、車両14に車載端末装置1が移動体通信装置として形成されている。車載端末装置1はインターネット2とは互いに異なる技術規格の複数の無線送受信手段による通信経路で接続可能にされている。この通信システムでは、ブルートゥース(Bluetooth:近距離無線データ通信技術)を用いたブルートゥース通信経路及び移動電話装置22を用いた移動電話通信経路が可能にされている。なお、これらの通信経路に加えてETC(Electronic Toll Collection System:自動料金収受システム)マイクロ波を用いた通信経路等の他の技術規格の通信経路を加えても良い。

【 0 0 1 2 】

ブルートゥース通信経路においては、ブルートゥース中継装置 1 1 がアクセスポイントとなるべき場所に設けられている。ブルートゥース中継装置 1 1 はインターネット 2 に接続され、車載端末装置 1 内のブルートゥース送受信装置 2 1 と無線信号にてデータを送受信する。ブルートゥース中継装置 1 1 は図 1 では 1 つしか示していないが、各ブルートゥース用のアクセスポイント、すなわちガソリンスタンド等の車道に面した店舗に備えられている。

【 0 0 1 3 】

移動電話経路においては、車載端末装置 1 内に移動電話装置 2 2 は備えられている。移動電話装置 2 2 は電話機能と共にパケット通信機能を有し、基地局装置 1 2 及び電話交換局装置 1 3 を介してインターネット 2 に接続される。電話交換局装置 1 3 にはインターネット接続機能が備えられている。移動電話装置 2 2 としては、車載用電話機だけでなく携帯電話機でも良い。

【 0 0 1 4 】

ブルートゥース通信経路は車載端末装置 1 がブルートゥース用のアクセスポイントから例えば、10～100m までの範囲の狭い通信範囲内に存在するとき利用される通信経路である。一方、移動電話通信経路は車載端末装置 1 がブルートゥース用のアクセスポイントの通信範囲以外に存在するとき利用される通信経路である。よって、後述するように緊急データのように優先的な内容のデータ通信が要求される場合には、ほぼ常時通信が可能な移動電話通信経路が用いられる。しかしながら、ブルートゥース通信経路は移動電話通信経路よりも高速通信を可能にするので、優先的な内容ではないが音楽データのようにデータ量が多いデータ通信では高速通信が可能なブルートゥース通信経路が用いられる。

【 0 0 1 5 】

車載端末装置 1 は、図 2 に示すように、CPU 2 0、ブルートゥース送受信装置 2 1、移動電話装置 2 2、GPS（グローバルポジショニングシステム）装置 2 4、車両運行検出部 2 5、操作部 2 6、表示装置 2 7、記憶装置 2 8、半導体メモリ 2 9、DVD-ROM ドライブ 3 0、チューナ 3 1、アンプ 3 2 及び運転者検出部 3 3 からなり、これらはバス 3 4 に共通接続されている。

【 0 0 1 6 】

G P S 装置 2 4 は車両 1 4 の現在位置を検出する。車両運行検出部 2 5 は例えば、車速、エンジン回転数、エンジンの吸気管内圧力等の車両 1 4 の運行状態を検出する。

記憶装置 2 8 はハードディスクからなり、車両データ、運転者データ、音楽データ、地図データ、運行データ及び住所録データ等の顧客の車両関連データを記憶してデータベースを形成する。また、車両関連データの他に後述するが、アクセスポイントを記憶しても良い。半導体メモリ 2 9 には一時的なデータが記憶される。

【 0 0 1 7 】

運転者検出部 3 3 は運転者の声紋、アイリス、指紋等の運転者を特定することができる運転者のパラメータを検出する。C P U 2 0 は運転者検出部 3 3 の出力信号に応じて運転者の変更及び現在の運転者が予め登録された運転者であることを確認する。なお、登録運転者は氏名、性別、住所、運転者特定パラメータ等の運転者データを予め入力しており、その運転データは記憶装置 2 8 に記憶されている。

【 0 0 1 8 】

チューナ 3 1 はテレビやラジオ放送の電波を受信するためのものである。アンプ 3 2 はデジタルオーディオデータをアナログ信号に変換する D / A 変換器を内蔵し、チューナ 3 1 の出力信号や D / A 変換器の出力信号に応じてスピーカ 3 5 を駆動するようになっている。

図 3 は車載端末装置 1 の前面パネル 1 a を示している。その前面パネルには、操作部 2 6 の各操作子及び表示装置 2 7 のディスプレイ画面 2 7 a が配置されている。操作部 2 6 の操作子としては図 3 に示すように、音量つまみ 2 6 a、選曲つまみ 2 6 b、音楽再生ボタン 2 6 c、渋滞情報ボタン 2 6 d、電話ボタン 2 6 e、インターネットボタン 2 6 f、経路探索ボタン 2 6 g 及び緊急通報ボタン 2 6 h がある。

【 0 0 1 9 】

音楽再生ボタン 2 6 c を操作すると、ディスプレイ画面 2 7 a には図 4 (a) に

示すように「音楽再生」の窓が表示され、そこには「インターネットラジオ」、「MP3データ」及び「地上波」の選択肢が表示される。

渋滞情報ボタン26dを操作すると、ディスプレイ画面27aには図4(b)に示すように「渋滞情報」の窓が表示され、そこには「ラジオ」、「インターネット」、「VICS」、「過去データより予測」、「ATIS」及び「高速道路公団案内」の選択肢が表示される。

【0020】

電話ボタン26eを操作すると、ディスプレイ画面27aには図4(c)に示すように「電話」の窓が表示され、そこには「連絡先リスト」の選択肢が表示される。

インターネットボタン26fを操作すると、図示しないが、WWW用ブラウザが起動され、ディスプレイ画面27aにはブラウザの窓が表示される。

【0021】

経路探索ボタン26gを操作すると、ディスプレイ画面27aには図4(d)に示すように「経路探索」の窓が表示され、そこには「出発地」、「目的地」、「日時」、「場所」、「条件」及び「過去の記録」の選択肢及び地図が表示される。

緊急通報ボタン26hを操作すると、ディスプレイ画面27aには図4(e)に示すように「緊急通報」の窓が表示され、そこには「アクセスポイント」、「緊急センタ」、「救急車」、「警察」、「保険会社」及び「修理工場」の選択肢が表示される。

【0022】

ディスプレイ画面27aに上記のように表示された選択肢を更に選択することにより、更に項目が表示されるが、これ以上のディスプレイ画面27aの表示についての説明は本発明と直接関係ないので省略する。

インターネット2にはASP(Application Service Provider)サーバ4が接続されている。ASPサーバ4は車載端末装置1からのアクセスに応じて車載端末装置1と通信し、各車両の上記した如き車両関連データを記憶装置4aに記憶させるために動作する。すなわち、記憶装置4aには車両関連データのデータベー

スが形成される。

【 0 0 2 3 】

また、インターネット 2 には、図 1 に示すように各車両自体を管理する車両管理センタの車両管理センタ装置 5、各車両の運転状況を管理する運行管理センタの運行管理センタ装置 6、車両所有者のホームサーバ 7、車両所有者の勤め先の事務所サーバ 8、音楽データを配信する音楽配信センタの音楽配信センタ装置 9 及び病院や警察の緊急通報センタの緊急通報センタ装置 1 0 が接続されている。車両管理センタ装置 5、運行管理センタ装置 6、ホームサーバ 7、事務所サーバ 8、音楽配信センタ装置 9 及び緊急通報センタ装置 1 0 各々は A S P サーバ 4 とインターネット 2 を介して通信する端末装置である。

【 0 0 2 4 】

車両管理センタ装置 5 は A S P サーバ 4 にアクセスして記憶装置 4 a に記憶された車両データを用いて各車両を管理する装置である。運行管理センタ装置 6 は A S P サーバ 4 にアクセスして記憶装置 4 a に記憶された運行データを用いて各車両の運行を管理する装置である。ホームサーバ 7 はユーザの家庭に設けられたサーバである。音楽配信センタ装置 9 は例えば、MP 3 形式や AAC 形式の音楽データを端末装置やサーバに配信する他、A S P サーバ 4 にアクセスして端末装置から音楽データを受け入れることも行う。緊急通報センタ装置 1 0 は車両において事故等の緊急状態が発生したときにその緊急通報を直接或いは A S P サーバ 4 を介して受け取る。

【 0 0 2 5 】

これらの装置 5、6、9、1 0 やサーバ 7、8 のいずれかが A S P サーバ 4 に対して H T T P 等のプロトコルによってインターネット 2 を介してアクセスすると、それに応答して A S P サーバ 4 から送信されてくる情報は図 5 (a) に示すようなユーザ I D 及びパスワードの入力表示画面となる。ここで、ユーザ I D 及びパスワードがユーザによって入力され、「ログイン」ボタンが操作されると、図 5 (b) に示すように選択画面となる。すなわち、「アプリケーション」、「データベース」、「ユーザ設定」及び「データ更新」の各選択肢が表示される。

【 0 0 2 6 】

ユーザの操作によって「アプリケーション」が選択されると、図 5 (c)に示すように「運行管理」、「緊急通報」、「音楽配信」、「盗難防止」、「車両管理」、「公衆電話」、「経路探索」及び「メール」からなる選択肢が表示される。

ユーザの操作によって「運行管理」が選択されると、A S Pサーバ4 は記憶装置 4 a から車両管理プログラムを読み出し、その車両管理プログラムを実行して表示データをインターネット 2 を介してアクセス元の装置やサーバに送信する。アクセス元の装置やサーバにおいては、A S Pサーバ4 から送られてきた車両管理プログラムの表示データは例えば、図 6 (a)に示すように表示される。

【 0 0 2 7 】

「緊急通報」が選択されると、「運行管理」の場合と同様に A S Pサーバ4 は記憶装置 4 a から緊急通報プログラムを読み出し、その緊急通報プログラムを実行して表示データをインターネット 2 を介してアクセス元の装置やサーバに送信する。アクセス元の装置やサーバにおいては、A S Pサーバ4 から送られてきた緊急通報プログラムの表示データは例えば、図 6 (b)に示すように表示される。

【 0 0 2 8 】

「音楽配信」が選択されると、A S Pサーバ4 は記憶装置 4 a から音楽配信プログラムを読み出し、その音楽配信プログラムを実行して表示データをインターネット 2 を介してアクセス元の装置やサーバに送信する。アクセス元の装置やサーバにおいては、A S Pサーバ4 から送られてきた音楽配信プログラムの表示データは例えば、図 6 (c)に示すように表示される。

【 0 0 2 9 】

「盗難防止」が選択されると、A S Pサーバ4 は記憶装置 4 a から盗難防止プログラムを読み出し、その盗難防止プログラムを実行して表示データをインターネット 2 を介してアクセス元の装置やサーバに送信する。アクセス元の装置やサーバにおいては、A S Pサーバ4 から送られてきた盗難防止プログラムの表示データは例えば、図 6 (d)に示すように表示される。

【 0 0 3 0 】

「車両管理」が選択されると、A S Pサーバ4 は記憶装置 4 a から車両管理プログラムを読み出し、その車両管理プログラムを実行して表示データをインター

ネット 2 を介してアクセス元の装置やサーバに送信する。アクセス元の装置やサーバにおいては、A S Pサーバ 4 から送られてきた車両管理プログラムの表示データは例えば、図 6 (e)に示すように表示される。

【 0 0 3 1 】

「経路探索」が選択されると、A S Pサーバ 4 は記憶装置 4 a から経路探索プログラムを読み出し、その経路探索プログラムを実行して表示データをインターネット 2 を介してアクセス元の装置やサーバに送信する。アクセス元の装置やサーバにおいては、A S Pサーバ 4 から送られてきた経路探索プログラムの表示データは例えば、図 6 (f)に示すように表示される。

【 0 0 3 2 】

「メール」が選択されると、A S Pサーバ 4 は記憶装置 4 a からメールプログラムを読み出し、そのメールプログラムを実行して表示データをインターネット 2 を介してアクセス元の装置やサーバに送信する。アクセス元の装置やサーバにおいては、A S Pサーバ 4 から送られてきたメールプログラムの表示データは例えば、図 6 (g)に示すように表示される。

【 0 0 3 3 】

「公衆電話」が選択されると、A S Pサーバ 4 は記憶装置 4 a から公衆電話プログラムを読み出し、その公衆電話プログラムを実行して表示データをインターネット 2 を介してアクセス元の装置やサーバに送信する。アクセス元の装置やサーバにおいては、A S Pサーバ 4 から送られてきた公衆電話プログラムの表示データは例えば、図 6 (h)に示すように表示される。

【 0 0 3 4 】

ユーザの操作によって「データベース」が選択されると、図 5 (d)に示すように「車両データ」、「運行データ」、「運転者データ」、「音楽データ」、「住所録データ」、及び「地図データ」からなる選択肢が表示される。

「車両データ」が選択されると、A S Pサーバ 4 は記憶装置 4 a から車両データを読み出し、その読み出した車両データをインターネット 2 を介してアクセス元の装置やサーバに送信する。アクセス元の装置やサーバにおいては、A S Pサーバ 4 から送られてきた車両データは例えば、図 7 (a)に示すように表示される

。「運行データ」が選択されると、車両データの場合と同様の動作によりASPサーバ4から運行データが送信され、アクセス元の装置やサーバにおいては、例えば、図7(b)に示すように運行データが表示される。「運転者データ」が選択されると、車両データの場合と同様の動作によりASPサーバ4から運転者データが送信され、アクセス元の装置やサーバにおいては、例えば、図7(c)に示すように運転者データが表示される。「音楽データ」が選択されると、車両データの場合と同様の動作によりASPサーバ4から音楽データが送信され、アクセス元の装置やサーバにおいては、例えば、図7(d)に示すように音楽データが表示される。「地図データ」が選択されると、車両データの場合と同様の動作によりASPサーバ4から地図データが送信され、アクセス元の装置やサーバにおいては、例えば、図7(e)に示すように地図データが表示される。「住所録データ」が選択されると、車両データの場合と同様の動作によりASPサーバ4から住所録データが送信され、アクセス元の装置やサーバにおいては、例えば、図7(f)に示すように住所録データが表示される。

【0035】

ユーザの操作によって「ユーザ設定」が選択されると、図5(e)に示すように「アクセス権の設定」、「新ユーザの追加」、「ユーザデータの変更」及び「アクセスポイント設定」からなる選択肢が表示される。

ユーザの操作によって「データ更新」が選択されると、図5(f)に示すように「無条件更新（データ移動）」、「条件付更新（相手先）」、「条件付更新（通信条件）」及び「消去（フォーマット）」からなる選択肢が表示される。

【0036】

次に、車載端末装置1のCPU20によって実行される通信制御動作について図8～図19を参照しつつ説明する。

CPU20は、先ず、アクセスポイント設定ルーチンを実行する。アクセスポイント設定ルーチンにおいては、図8に示すように車両14の目的地が設定されている否かを判別する（ステップS1）。目的地は、上記の経路探索ボタン26gの操作によって設定される。目的地が設定されている場合には、目的地までの走行経路を設定し（ステップS2）、その経路におけるアクセスポイントのうち

の車両 14 の現在位置から最も近いアクセスポイントを抽出する（ステップ S 3）。目的地が設定されていない場合には車両 14 の現在位置に近いアクセスポイントを抽出する（ステップ S 4）。現在位置を中心とする地域（例えば、半径 100 km 以内）のアクセスポイントは、地図データと共に予め記憶装置 28 又は DVD-ROM に記憶されている。DVD の場合には DVD-ROM ドライブ 30 によって読み出される。現在位置は GPS 装置 24 によって検出されるので、ステップ S 2 及び S 4 においてもアクセスポイントは GPS 装置 24 から得られた現在位置に基づいて記憶装置 28 又は DVD-ROM から検索される。また、そのアクセスポイントはブルートゥース通信経路及び移動電話通信経路各々に対して設定され、設定された各通信経路のアクセスポイントはブルートゥース用アクセスポイント及び移動電話用アクセスポイントとしてメモリ 29 に記憶される。

【0037】

なお、目的地までの走行経路はステップ S 2 で自動設定しているが、上記の経路探索ボタン 26 g の操作に応じて運転者等のユーザがディスプレイ画面 27 a に表示された地図上でポインタによって選択的に設定してメモリ 29 に保存することができるので、走行経路が既に設定されている場合には、ステップ S 2 ではその設定されている走行経路をメモリ 29 から読み出してステップ S 3 ではその設定されている走行経路に応じてアクセスポイントを設定することが行われる。

【0038】

ステップ S 4 では単に現在位置から最短距離の位置にあるアクセスポイントが設定される。

また、現在位置から目的地までの走行経路を記憶装置 28 又は DVD-ROM に記憶された道路データに応じて自動的に検索することができる。その検索結果、複数の走行経路がある場合には、それらの走行経路をディスプレイ画面 27 a に表示してユーザに選択させても良い。

【0039】

移動電話用アクセスポイントについては、通話が可能なセル内に車両 14 が存在するならばそのセルの基地局装置との制御チャンネルで通信が自動的に行われ

て移動電話装置 2 2 がアクセスポイントの情報を有しているので、移動電話装置 2 2 から移動電話用アクセスポイントを得ることができる。車両 1 4 がセル以外の通話できない領域にいる場合には、上記のように記憶装置 2 8 又は DVD-R OM から検索することが行われる。

【 0 0 4 0 】

CPU 2 0 は、アクセスポイント設定ルーチンの実行後、図 9 ～図 1 1 に示す通信制御ルーチンを例えば、1 秒毎に繰り返し実行する。通信制御ルーチンにおいて CPU 2 0 は、先ず、緊急データ通信設定ルーチンを実行する（ステップ S 1 1 ）。

緊急データ通信設定ルーチンにおいて CPU 2 0 は、図 1 2 に示すように緊急通信が指令されたか否かを判別する（ステップ S 5 1 ）。操作部 2 6 の緊急通報ボタン 2 6 g が操作されたことにより緊急通信が指令されたり、緊急データが記憶装置 2 8 に格納された場合には、移動電話通信経路を用いるための緊急データ送信要求フラグをセットする（ステップ S 5 2 ）。緊急データ送信要求フラグは優先的なデータ通信を要求するフラグである。

【 0 0 4 1 】

CPU 2 0 は、ステップ S 1 1 の実行後、緊急データ送信フラグがセットされたか否かを判別する（ステップ S 1 2 ）。緊急データ送信要求フラグがセットされた場合には、記憶装置 2 8 から緊急データを読み出してそれを移動電話装置 2 2 によって ASP サーバ 4 に送信させる（ステップ S 1 3 ）。送信先は ASP サーバ 4 に限らず、緊急通報センタ装置 1 0 等の他の装置を含んでも良い。なお、移動電話装置 2 2 を用いた移動電話通信経路での通信が不可能な領域、すなわち移動電話用アクセスポイントから遠く離れた領域に車両が存在する場合は考えられるが、その場合には、ステップ S 1 3 は移動電話通信経路での通信が可能となるまで繰り返し実行される。

【 0 0 4 2 】

CPU 2 0 は、ステップ S 1 3 の実行後は、実際の走行経路がステップ S 2 で設定した走行経路通りであるか否かを判別する（ステップ S 1 4 ）。ステップ S 1 4 はステップ S 1 2 において緊急データ送信フラグがセットされていないと判

別した場合には直ちに実行される。ステップ S 1 4 では車両の現在位置がステップ S 2 の走行経路上に位置しているか否かを判別することが行われる。

【 0 0 4 3 】

実際の走行経路が設定通りではない場合には、目的地までの走行経路を再設定し（ステップ S 1 5）、その再設定の走行経路におけるアクセスポイントのうちの車両 1 4 の現在位置から最も近いアクセスポイントを抽出する（ステップ S 1 6）。これは、上記のステップ S 2 及び S 3 と同様の動作である。

実際の走行経路が設定通りである場合には、ステップ S 1 7 に進んで各種通信設定ルーチンが直ちに実行される。また、ステップ S 1 5 及び S 1 6 を実行した場合にはその後、ステップ S 7 6 に進む。

【 0 0 4 4 】

CPU 2 0 は、図 9 に示すように、車両データ通信設定ルーチン（ステップ S 1 7）、運転者データ通信設定ルーチン（ステップ S 1 8）、音楽データ通信設定ルーチン（ステップ S 1 9）、地図データ通信設定ルーチン（ステップ S 2 0）、運行データ通信設定ルーチン（ステップ S 2 1）及び住所録データ通信設定ルーチン（ステップ S 2 2）を順に実行する。

【 0 0 4 5 】

車両データ通信設定ルーチンにおいて CPU 2 0 は、図 1 3 に示すように、先ず、定期的な車両データ送信要求が発生したか否かを判別する（ステップ S 7 1）。車両データの更新サイクルは、図 1 4 に示すように 1 週間に 1 回であり、ステップ S 7 1 では前回の更新日時から 1 週間が経過したか否かが判別される。

なお、車両データ、運転者データ、音楽データ、地図データ、運行データ、住所録データ及び緊急データ各々について更新サイクルと共に前回の更新日時が図 1 4 に示した如き更新テーブルとして記憶装置 2 8 には形成されている。更新テーブルの更新日時の欄には対応するデータが A S P サーバ 4 に送信されたときの日時が書き込まれる。

【 0 0 4 6 】

前回の更新日時から 1 週間が経過したことにより定期的な送信要求が発生した場合には、ブルートゥース通信経路を用いるための車両データ定期送信要求フラ

グをセットする（ステップ S 7 2）。

定期的な送信要求が発生していない場合には、イベント送信要求が発生したか否かを判別する（ステップ S 7 3）。ステップ S 7 3 の判別はステップ S 7 2 の実行後も直ちに行われる。イベント送信要求とは、車両データに応じて車両に不具合が生じた場合に発生される。例えば、エンジンの燃焼異常、オイル量の閾値以下への減少、ガソリン量の閾値以下への減少、タイヤの空気圧の閾値以下への減少等の車両の異常時やバッテリーやタイヤの交換時にも発生される。

【 0 0 4 7 】

イベント送信要求が発生した場合には、移動電話通信経路を用いるための車両データイベント送信要求フラグをセットする（ステップ S 7 4）。車両データイベント送信要求フラグは車両データ定期送信要求フラグよりも優先的なデータ通信を要求するフラグである。

ステップ S 7 4 の実行後、車両データ操作送信要求が発生したか否かを判別する（ステップ S 7 5）。ステップ S 7 5 ではユーザの操作に応じて任意のサーバ等の所望の送り先への車両データの送信要求が発生したか否かが判別される。車両データ操作送信要求が発生した場合には、Bluetooth 通信経路での通信が可能か否かを判別する（ステップ S 7 6）。すなわち、設定されている Bluetooth 用のアクセスポイントに対するアクセス範囲内にあるか否かが判別される。例えば、Bluetooth 中継装置 1 1 からの送信信号を Bluetooth 送受信装置 2 1 で受信できるならば、Bluetooth 通信経路での通信が可能となる。Bluetooth 通信経路での通信が可能ならば、車両データ操作送信要求フラグ A をセットする（ステップ S 7 7）。一方、Bluetooth 通信経路での通信が不可能ならば、移動電話通信経路を用いるための車両データ操作送信要求フラグ B をセットする（ステップ S 7 8）。車両データ操作送信要求は優先的にデータ通信を要求して発生されたので、Bluetooth 通信経路での通信が可能ならば、車両データ操作送信要求フラグ A のセットによって Bluetooth 通信経路を用いた車両データ通信が行われることになり、Bluetooth 通信経路での通信が不可能ならば、車両データ操作送信要求フラグ B のセットによって移動電話通信経路を用いた車両データ通信が行われることになる。

【 0 0 4 8 】

音楽データ通信設定ルーチンにおいてCPU 20は、図15に示すようにまず、音声データの定期送信時刻が到来したか否かを判別する（ステップS 8 1）。音楽データの1日に2回（例えば、12時及び18時）の定期的なアップロードの時刻が到来した場合には、記憶装置28にASPサーバ4に対して送信すべき音楽データが保存されているか否かを判別する（ステップS 8 2）。記憶装置28に送信すべき音楽データが保存されている場合には、音楽データ定期送信要求フラグをセットする（ステップS 8 3）。なお、ステップS 8 2ではASPサーバ4に送信すべき音楽データに限定しているが、ASPサーバ4以外の装置やサーバに送信すべき音楽データが保存されている場合にはその音楽データについて音楽データ定期送信要求フラグをセットしても良い。

【 0 0 4 9 】

一方、音声データ定期送信時刻ではない場合には、音楽データ予約通信要求が発生した否かを判別する（ステップS 8 4）。音楽データを所定のサーバに対してダウンロード又はアップロードする予約が設定されている場合には、その予約時刻になると音楽データ予約通信要求が発生される。音楽データ予約通信要求が発生した場合には、音楽データ通信要求フラグをセットする（ステップS 8 5）。音楽データ定期送信要求フラグ及び音楽データ通信要求フラグ共にブルートゥース通信経路での通信を行うことを前提にしているフラグである。

【 0 0 5 0 】

ステップS 8 5の実行後、音楽データ操作通信要求が発生したか否かを判別する（ステップS 8 6）。ステップS 8 6ではユーザの操作に応じて任意のサーバ等の所望の送り先への音楽データのアップロード又は所望の送り先からのダウンロードの要求が発生したか否かが判別される。操作通信要求が発生した場合には、ブルートゥース通信経路での通信が可能か否かを判別する（ステップS 8 7）。すなわち、設定されているブルートゥース用のアクセスポイントに対するアクセス範囲内にあるか否かが判別される。例えば、ブルートゥース中継装置11からの送信信号をブルートゥース送受信装置21で受信できるならば、ブルートゥース通信経路での通信が可能となる。ブルートゥース通信経路での通信が可能な

らば、音楽データ操作通信要求フラグAをセットする（ステップS88）。一方、ブルートゥース通信経路での通信が不可能ならば、移動電話通信経路を用いるための音楽データ操作通信要求フラグBをセットする（ステップS89）。音楽データ操作通信要求は優先的に通信を要求して発生されたので、ブルートゥース通信経路での通信が可能ならば、音楽データ操作通信要求フラグAのセットによってブルートゥース通信経路を用いた通信が行われることになり、ブルートゥース通信経路での通信が不可能ならば、音楽データ操作通信要求フラグBのセットによって移動電話通信経路を用いた通信が行われることになる。

【0051】

運転者データ通信設定ルーチンにおいてCPU20は、図16に示すように先ず、運転者が変更したか否かを判別する（ステップS91）。運転者の変更はCPU20において運転者検出部33の出力信号に応じて判別される。運転者の変更があった場合には、ブルートゥース通信経路を用いるために運転者データ送信要求フラグAをセットする（ステップS92）。

【0052】

運転者は登録された運転者であるか否かを判別する（ステップS93）。上記したように、登録運転者は氏名、性別、住所、運転者特定パラメータ等の運転者データを予め入力しており、その運転データは記憶装置28に記憶されているので、運転者検出部33の出力信号に応じて判別された運転者に対応した運転者データが記憶装置28に記憶されているか否かを判別することが行われる。運転者は登録運転者ではない場合には車両が盗難された可能性があり、直ちにその情報を通知する必要があるので、移動電話通信経路を用いるために運転者データ送信要求フラグBをセットする（ステップS94）。運転者データ送信要求フラグBは運転者データ送信要求フラグAよりも優先的なデータ通信を要求するフラグである。なお、ステップS94が実行された場合には、運転者データ送信要求フラグAをリセットしても良い。

【0053】

地図データ通信設定ルーチンにおいてCPU20は、図17に示すように先ず、定期的な地図データ送信要求が発生したか否かを判別する（ステップS101

）。地図データの更新サイクルは、図 1 4 に示すように 1 ヶ月に 1 回であり、ステップ S 1 0 1 では前回の更新日時から 1 ヶ月が経過したか否かが判別される。

前回の更新日時から 1 ヶ月が経過したことにより定期的な地図データ送信要求が発生した場合には、ブルートゥース通信経路を用いるための地図データ定期送信要求フラグをセットする（ステップ S 1 0 2）。地図データは容量的に大きいので、ブルートゥース通信経路を用いたデータ通信が行われるのである。

【 0 0 5 4 】

運行データ通信設定ルーチンにおいて CPU 2 0 は、図 1 8 に示すようにまず、定期的な運行データ送信要求が発生したか否かを判別する（ステップ S 1 1 1）。運行データの更新サイクルは、図 1 4 に示すように 1 0 分に 1 回であり、ステップ S 1 1 1 では前回の更新日時から 1 0 分が経過したか否かが判別される。

前回の更新日時から 1 0 分が経過したことにより定期的な運行データ送信要求が発生した場合には、ブルートゥース通信経路を用いるために運行データ定期送信要求フラグをセットする（ステップ S 1 1 2）。運行データは車両運行検出部 2 5 によって検出された車両の速度及びエンジン回転数等の車両の運行パラメータの他に、GPS 装置 2 4 によって検出された車両の現在位置である。

【 0 0 5 5 】

ステップ S 1 1 2 の実行後、運行データの前回の送信から所定時間（例えば、更新サイクルの 1 0 分より若干長い時間）以上の時間が経過したか否かを判別する（ステップ S 1 1 3）。運行データの前回の送信から所定時間以上の時間が経過した場合には、移動電話通信経路を用いるための運行データ臨時送信要求フラグをセットする（ステップ S 1 1 4）。運行データの前回の送信から所定時間以上の時間が経過していない場合には、ブルートゥース通信経路を用いた通信のためにステップ S 1 1 2 でセットした定期運行データ送信要求フラグがそのまま有効となる。運行データは本来、ブルートゥース通信経路によって ASP サーバ 4 に伝送するように設定されるが、ステップ S 4 又は S 1 5 で設定されたブルートゥース用のアクセスポイントに対するアクセス範囲内に到達するまでには更なる時間が必要な場合に、運行データ定期送信要求フラグよりも優先的なデータ通信を要求する運行データ臨時送信要求フラグをセットし、後述するように移動電話

通信経路を用いて運行データを直ちに送信することが行われる。

【 0 0 5 6 】

住所録データ通信設定ルーチンにおいてCPU 20は、図19に示すように先ず、住所録データの記録内容に変更があるか否かを判別する（ステップS121）。記憶装置28には住所録データが記憶されており、その住所録データの記憶内容に変更があった場合には、ブルートゥース通信経路を用いるために住所録データ送信要求フラグをセットする（ステップS122）。なお、住所録データの記憶内容の変更は、例えば、住所録データの変更時に住所録データ変更フラグがセットされ、その住所録データ変更フラグの内容から判断される。住所録データ変更フラグは住所録データが送信されるとリセットされる。

【 0 0 5 7 】

住所録データに含まれる対象者としては、例えば、車両の所有者、家族、友人、保険会社、警察、消防署、及び修理工場がある。

なお、ステップS11及びステップS17～S22の各通信設定ルーチンにおけるフラグ各々は通信制御ルーチンが実行される毎にリセットされる。

ステップS17～S22の各通信設定ルーチンが上記したように終了すると、CPU 20は図10に示すように、ブルートゥース通信経路での通信が可能か否かを判別する（ステップS17）。すなわち、設定されているブルートゥース用のアクセスポイントに対するアクセス範囲内にあるか否かが判別される。ブルートゥース通信経路での通信が可能ならば、ステップS72で車両データ定期送信要求フラグがセットされたか否かを判別する（ステップS18）。車両データ定期送信要求フラグがセットされた場合には、記憶装置28から車両データを読み出してそれをブルートゥース送受信装置21によってASPサーバ4に送信させる（ステップS19）。車両データ定期送信要求フラグがセットされていない場合には、ステップS77で車両データ操作送信要求フラグAがセットされたか否かを判別する（ステップS20）。車両データ操作送信要求フラグAがセットされた場合には、ステップS19に進んで記憶装置28から車両データを読み出してそれをブルートゥース送受信装置21によってASPサーバ4に送信させる。なお、車両データ定期送信要求フラグ及び車両データ操作送信要求フラグAの両

方がセットされていることも考えられるので、ステップ S 1 9 は個別に実行しても良い。

【 0 0 5 8 】

ステップ S 1 9 の実行後、ステップ S 8 3 で音楽データ定期送信要求フラグがセットされたか否かを判別する（ステップ S 2 1）。音楽データ定期送信要求フラグがセットされた場合には、記憶装置 2 8 から送信すべき音楽データを読み出してそれをブルートゥース送受信装置 2 1 によって A S P サーバ 4 に送信させる（ステップ S 2 2）。

【 0 0 5 9 】

ステップ S 2 2 の実行後、ステップ S 8 8 で音楽データ操作通信要求フラグ A がセットされたか否かを判別する（ステップ S 2 3）。音楽データ操作通信要求フラグ A がセットされた場合には、記憶装置 2 8 から送信すべき音楽データを読み出してそれをブルートゥース送受信装置 2 1 によって所望の送り先にアップロードの送信を行い、或いは所望の送り元から音楽データのダウンロードの受信をブルートゥース送受信装置 2 1 を介して行う（ステップ S 2 4）。ダウンロードによって得られた音楽データは記憶装置 2 8 に保存される。

【 0 0 6 0 】

ステップ S 2 4 の実行後、ステップ S 9 2 で運転者データ送信要求フラグ A がセットされたか否かを判別する（ステップ S 2 5）。運転者データ送信要求フラグ A がセットされた場合には、記憶装置 2 8 から運転者データを読み出してそれをブルートゥース送受信装置 2 1 によって A S P サーバ 4 に送信させる（ステップ S 2 6）。

【 0 0 6 1 】

ステップ S 2 6 の実行後、ステップ S 1 0 2 で地図データ定期送信要求フラグがセットされたか否かを判別する（ステップ S 2 7）。地図データ定期送信要求フラグがセットされた場合には、記憶装置 2 8 から送信すべき地図データを読み出してそれをブルートゥース送受信装置 2 1 によって A S P サーバ 4 に送信させる（ステップ S 2 8）。

【 0 0 6 2 】

ステップ S 2 9 の実行後、ステップ S 1 1 2 で運行データ定期送信要求フラグがセットされたか否かを判別する（ステップ S 2 9）。運行データ定期送信要求フラグがセットされた場合には、記憶装置 2 8 から運行データを読み出してそれをブルートゥース送受信装置 2 1 によって A S P サーバ 4 に送信させる（ステップ S 3 0）。

【 0 0 6 3 】

ステップ S 3 0 の実行後、ステップ S 1 2 2 で住所録データ送信要求フラグがセットされたか否かを判別する（ステップ S 3 1）。住所録データ定期送信要求フラグがセットされた場合には、記憶装置 2 8 から変更された住所録データを読み出してブルートゥース送受信装置 2 1 によって A S P サーバ 4 に送信させる（ステップ S 3 2）。

【 0 0 6 4 】

ステップ S 1 7 においてブルートゥース通信経路での通信が不可能と判別した場合には、図 1 1 に示すように移動電話通信経路での通信が可能か否かを判別する（ステップ S 3 3）。ステップ S 3 2 の実行後もステップ S 3 3 が実行される。移動電話通信用のアクセスポイントが設定されて移動電話通信経路での通信が可能である場合には、ステップ S 7 4 で車両データイベント送信要求フラグがセットされたか否かを判別する（ステップ S 3 4）。ステップ S 3 4 において車両データイベント送信要求フラグがセットされたと判別された場合には、記憶装置 2 8 から車両データを読み出してそれを移動電話装置 2 2 によって A S P サーバ 4 に送信させる（ステップ S 3 5）。車両データイベント送信要求フラグがセットされていない場合には、ステップ S 7 8 で車両データ操作送信要求フラグ B がセットされたか否かを判別する（ステップ S 3 6）。車両データ操作送信要求フラグ B がセットされた場合には、ステップ S 3 5 に進んで記憶装置 2 8 から車両データを読み出してそれを移動電話装置 2 2 によって A S P サーバ 4 に送信させる。なお、車両データイベント送信要求フラグ及び車両データ操作送信要求フラグ B の両方がセットされていることも考えられるので、ステップ S 3 5 は個別に実行しても良い。

【 0 0 6 5 】

ステップ S 3 5 の実行後、ステップ S 8 5 で音楽データ通信要求フラグがセットされたか否かを判別する（ステップ S 3 7）。音楽データ通信要求フラグがセットされた場合には、記憶装置 2 8 から送信すべき音楽データを読み出してそれを移動電話装置 2 2 によって所望の送り先にアップロードの送信を行い、或いは所望の送り元から音楽データのダウンロードの受信を移動電話装置 2 2 を介して行う（ステップ S 3 8）。ダウンロードによって得られた音楽データは記憶装置 2 8 に保存される。

【 0 0 6 6 】

音楽データ通信要求フラグがセットされていない場合には、ステップ S 8 9 で音楽データ操作通信要求フラグ B がセットされたか否かを判別する（ステップ S 3 9）。音楽データ操作通信要求フラグ B がセットされた場合には、ステップ S 3 8 に進んで記憶装置 2 8 から送信すべき音楽データを読み出してそれを移動電話装置 2 2 によって所望の送り先にアップロードの送信を行い、或いは所望の送り元から音楽データのダウンロードの受信を移動電話装置 2 2 を介して行う。なお、音楽データ通信要求フラグ及び音楽データ操作送信要求フラグ B の両方がセットされていることも考えられるので、ステップ S 3 8 は個別に実行しても良い。

【 0 0 6 7 】

ステップ S 3 8 の実行後、ステップ S 9 4 で運転者データ送信要求フラグ B がセットされたか否かを判別する（ステップ S 4 0）。運転者データ送信要求フラグ B がセットされた場合には、記憶装置 2 8 から運転者データを読み出してそれを移動電話装置 2 2 によって A S P サーバ 4 に送信させる（ステップ S 4 1）。

ステップ S 4 1 の実行後、ステップ S 1 1 4 で運行データ臨時送信要求フラグがセットされたか否かを判別する（ステップ S 4 2）。運行データ臨時送信要求フラグがセットされた場合には、記憶装置 2 8 から運行データを読み出してそれを移動電話装置 2 2 によって A S P サーバ 4 に送信させる（ステップ S 4 3）。

【 0 0 6 8 】

A S P サーバ 4 は車載端末装置 1 からのアクセスに応じて車載端末装置 1 と通信し、車両毎に上記した如き緊急データ、車両データ、音楽データ、運転者デー

タ、地図データ、運行データ、住所録データ等からなる車両関連データを記憶装置 4 a に記憶させるために動作する。よって、車載端末装置 1 の記憶装置 2 8 に形成されたデータベースと同様のデータベースを A S P サーバ 4 の記憶装置 4 a に形成させることができる。

【 0 0 6 9 】

車載端末装置 1 から車両関連データの保存のために A S P サーバ 4 に対してアクセスがあると、A S P サーバ 4 はユーザ識別コード及びパスワードを要求し、車載端末装置 1 から送られてきたユーザ識別コード及びパスワードを用いてユーザ認証を行った後、データの送信を車載端末装置 1 に許可し、送られてきたデータを受け付けて記憶装置 4 a に記憶させ、データベースの更新を行う。

【 0 0 7 0 】

なお、上記の実施例においては、ブルートゥース通信経路及び移動電話通信経路の 2 つの異なる技術規格の通信経路のうちのからいずれか一方を選択的に使用しているが、3 以上の互いに異なる技術規格の通信経路のうちのからいずれか一方を選択的に使用しても良い。

複数の異なる技術規格の通信経路のいずれを用いるかの判断は、送信又は受信すべきデータの種類に応じて決定される。音楽データのように容量が大きいデータの場合には通信速度がブルートゥース通信経路のような高速の通信経路が用いられる。また、この判断には経済性も考慮される。一般に、移動電話通信経路の使用はコスト高であるので、長時間の使用には向かないので、コストの高い通信経路は容量が大きいデータの場合にのみの使用となる。

【 0 0 7 1 】

また、運転者等のユーザの操作によるデータ送信要求の場合には、即応性が要求されるので、コストとは無関係にアクセスポイントが多く直ちに送信することができる移動電話通信経路の如き通信経路が優先的に選択される。このことは、緊急データのように緊急性があるデータの場合には移動電話通信経路の如き通信経路が選択されることも同様である。

【 0 0 7 2 】

更に、上記の運行データのように定期的にデータ送信するような場合には、ブ

ルートウース通信経路のような低コストで高速の通信経路を優先的に使用するが、アクセスポイントが少ない地域では定期送信時刻をかなり経過してしまっても送信することができないことが考えられる。そこで、このような場合には、移動電話通信経路の如き比較的常時通信可能な通信経路に切り換えてデータ送信することが行われる。

【 0 0 7 3 】

ところで、ASPサーバ4は記憶装置4aに形成されたデータベースへのアクセスに対してアクセス権を設定している。アクセス権は、アクセスして来る装置毎に設定されると共にデータの種類毎に設定される。図20は各装置に対応してアクセスが許可されるデータの種類を示している。すなわち、車両管理センタ装置5、運行管理センタ装置6、ホームサーバ7、事務所サーバ8、音楽配信センタ装置9及び緊急通報センタ装置10に対してアクセスが許可されるデータと禁止されるデータとが予め設定されている。図20において○印が許可されるデータであり、×印は禁止されるデータである。

【 0 0 7 4 】

ASPサーバ4を利用するユーザは、ユーザ名、ユーザグループ、ユーザ識別コードID、パスワード、電話番号、Eメールアドレス及び住所からなるユーザ登録情報を予め設定登録しており、記憶装置4aに記憶されている。ASPサーバ4はデータベースの読出要求が合った場合に、これらのユーザ登録情報を記憶装置4aから読み出してユーザ登録された正規ユーザであることを判別してからデータベースへのアクセス許可を与える。

【 0 0 7 5 】

次に、ASPサーバ4において実行されるデータベースへのアクセス許可動作について説明する。ここでは、車両管理センタ装置5、運行管理センタ装置6、ホームサーバ7、事務所サーバ8、音楽配信センタ装置9及び緊急通報センタ装置10からのアクセス許可について図21及び図22を参照して説明する。

ASPサーバ4はデータベースのデータ読出要求を受信すると、図21に示すようにユーザ識別コード及びパスワードを要求し（ステップS201）、ユーザ識別コード及びパスワードを受信したか否かを判別する（ステップS202）。

ユーザ識別コード及びパスワードを受信したならば、そのユーザ識別コード及びパスワードを含むユーザ登録情報が記憶装置 4 a にあるか否かを判別する（ステップ S 2 0 3）。受信したユーザ識別コード及びパスワードを含むユーザ登録情報が記憶装置 4 a にある場合には、ユーザ識別コード及びパスワードを含むユーザ登録情報からアクセス元の装置又はサーバを識別する（ステップ S 2 0 4）、データ読出要求のデータの種類の種類は車両関連データのうちのいずれのデータであるかを要求し（ステップ S 2 0 5）、その後、読出要求のデータ種類を受信したか否かを判別する（ステップ S 2 0 6）。

【 0 0 7 6 】

受信したデータ種類が車両データならば（ステップ 2 0 7）、アクセス権テーブルを用いて車両データへのアクセスが可能か否かを判別する（ステップ S 2 0 8）。記憶装置 4 a には図 2 0 に示したようにデータの種類の種類毎に装置及びサーバについてのアクセス許可／禁止を示すアクセス権テーブルが予め記憶されている。図 2 0 において○印が許可されるデータであり、×印は禁止されるデータである。よって、そのアクセス権テーブルから分かるように、音楽配信センタ装置 9 だけがアクセス禁止であるので、データ読出要求が音楽配信センタ装置 9 以外の装置 5, 6, 1 0 又はサーバ 7, 8 からの要求であれば、車両データへのアクセス許可を通知する（ステップ S 2 0 9）。一方、データ読出要求が音楽配信センタ装置 9 を含むその他の装置又はサーバからの要求であれば、データへのアクセス禁止を通知する（ステップ S 2 1 0）。

【 0 0 7 7 】

受信したデータ種類が運転者データならば（ステップ S 2 1 1）、アクセス権テーブルを用いて運転者データへのアクセスが可能か否かを判別する（ステップ S 2 1 2）。図 2 0 に示したアクセス権テーブルから分かるように、装置 5, 6, 9, 1 0 及びサーバ 7, 8 に対してはアクセス許可であるので、装置 5, 6, 9, 1 0, サーバ 7 又は 8 からのデータ読出要求であれば、運転者データへのアクセス許可を通知する（ステップ S 2 1 3）。一方、装置 5, 6, 9, 1 0 及びサーバ 7, 8 以外の装置又はサーバからのデータ読出要求であれば、データへのアクセス禁止を通知する（ステップ S 2 1 0）。

【 0 0 7 8 】

受信したデータ種類が音楽データならば（ステップ 2 1 4）、アクセス権テーブルを用いて音楽データへのアクセスが可能か否かを判別する（ステップ S 2 1 5）。図 2 0 に示したアクセス権テーブルから分かるように、装置 9 及びサーバ 7、8 に対してはアクセス許可であるので、装置 9、サーバ 7 又は 8 からのデータ読出要求であれば、音楽データへのアクセス許可を通知する（ステップ S 2 1 6）。一方、装置 9 及びサーバ 7、8 以外の装置 5、6、1 0 を含む他の装置又はサーバからのデータ読出要求であれば、データへのアクセス禁止を通知する（ステップ S 2 1 0）。

【 0 0 7 9 】

受信したデータ種類が地図データならば（ステップ 2 1 7）、アクセス権テーブルを用いて地図データへのアクセスが可能か否かを判別する（ステップ S 2 1 8）。図 2 0 に示したアクセス権テーブルから分かるように、装置 6、9、1 0 及びサーバ 7 に対してはアクセス許可であるので、装置 6、9、1 0 又はサーバ 7 からのデータ読出要求であれば、地図データへのアクセス許可を通知する（ステップ S 2 1 9）。一方、装置 6、9、1 0 及びサーバ 7 以外の装置 5 及びサーバ 8 を含む他の装置又はサーバからのデータ読出要求であれば、データへのアクセス禁止を通知する（ステップ S 2 1 0）。

【 0 0 8 0 】

図 2 2 に示すように、受信したデータ種類が運行データならば（ステップ 2 2 0）、アクセス権テーブルを用いて運行データへのアクセスが可能か否かを判別する（ステップ S 2 2 1）。図 2 0 に示したアクセス権テーブルから分かるように、装置 5、6、1 0 及びサーバ 7 に対してはアクセス許可であるので、装置 5、6、1 0 及びサーバ 7 のいずれかからのデータ読出要求であれば、運行データへのアクセス許可を通知する（ステップ S 2 2 2）。一方、装置 5、6、1 0 及びサーバ 7 以外の装置 9 及びサーバ 8 を含む他の装置又はサーバからのデータ読出要求であれば、データへのアクセス禁止を通知する（ステップ S 2 1 0）。

【 0 0 8 1 】

受信したデータ種類が住所録データならば（ステップ 2 2 3）、アクセス権テ

ーブルを用いて住所録データへのアクセスが可能か否かを判別する（ステップ S 2 2 4）。図 2 0 に示したアクセス権テーブルから分かるように、サーバ 7, 8 に対してはアクセス許可であるので、サーバ 7, 8 のいずれかからのデータ読出要求であれば、住所録データへのアクセス許可を通知する（ステップ S 2 2 5）。一方、サーバ 7, 8 以外の装置 5, 6, 9, 1 0 を含む他の装置又はサーバからのデータ読出要求であれば、データへのアクセス禁止を通知する（ステップ S 2 1 0）。

【 0 0 8 2 】

受信したデータ種類が緊急データならば（ステップ 2 2 6）、アクセス権テーブルを用いて緊急データへのアクセスが可能か否かを判別する（ステップ S 2 2 7）。図 2 0 に示したアクセス権テーブルから分かるように、サーバ 7 及び装置 1 0 に対してはアクセス許可であるので、サーバ 7 又は装置 1 0 からのデータ読出要求であれば、緊急データへのアクセス許可を通知する（ステップ S 2 2 8）。一方、サーバ 7 及び装置 1 0 以外のサーバ 8 及び装置 5, 6, 9 を含む他の装置又はサーバからのデータ読出要求であれば、データへのアクセス禁止を通知する（ステップ S 2 1 0）。

【 0 0 8 3 】

A S P サーバ 4 はデータへのアクセスを許可する場合には、許可した装置又はサーバからの記憶装置 4 a に形成されたデータベースの許可した種類のデータへのアクセスを受け入れる（ステップ S 2 2 9）。

また、アクセス権については、装置やサーバ単位で設定するのではなく、ユーザグループ単位で設定しても良い。図 2 3 は、車両の事故の際にユーザグループに対応してアクセスが許可されるデータの種類を示すアクセス権テーブルの内容である。すなわち、所有者、家族、友人、保険会社、警察、消防署及び修理工場からなるユーザグループに対してアクセスが許可されるデータと禁止されるデータとが予め設定されている。図 2 3 において○印が許可されるデータであり、×印は禁止されるデータである。

【 0 0 8 4 】

A S P サーバ 4 を利用するユーザは、ユーザ名、ユーザグループ、ユーザ識別

コードID、パスワード、電話番号、Eメールアドレス及び住所からなるユーザ登録情報を予め設定登録しており、記憶装置4aに記憶されている。ASPサーバ4はデータベースの読出要求が合った場合に、これらのユーザ登録情報を記憶装置4aから読み出してユーザ登録された正規ユーザであることを判別してからデータベースへのアクセス許可を与える。

【0085】

ASPサーバ4はデータベースのデータ読出要求を受信すると、図24及び図25に示すように、ユーザ識別コード及びパスワードを要求し（ステップS151）、ユーザ識別コード及びパスワードを受信したか否かを判別する（ステップS152）。ユーザ識別コード及びパスワードを受信したならば、そのユーザ識別コード及びパスワードを含むユーザ登録情報が記憶装置4aにあるか否かを判別する（ステップS153）。受信したユーザ識別コード及びパスワードを含むユーザ登録情報が記憶装置4aにある場合には、読出要求のデータの種類の種類は車両関連データのうちのいずれのデータであるかを要求し（ステップS154）、その後、読出要求のデータ種類を受信したか否かを判別する（ステップS155）。

【0086】

受信したデータ種類が車両データならば（ステップ156）、車両データへのアクセス許可を通知する（ステップS157）。受信したデータ種類が運転者データならば（ステップS158）、ユーザグループは警察又は修理工場か否かを判別する（ステップS159）。ユーザグループはステップS153で用いたユーザ登録情報から得る。運転者データは図23に示したように、ユーザグループが警察及び修理工場を除くユーザグループであればアクセスを許可される。ユーザグループは警察及び修理工場のいずれでもない場合には、運転者データへのアクセス許可を通知する（ステップS160）。受信したデータ種類が音楽データならば（ステップ161）、ユーザグループは所有者又は友人か否かを判別する（ステップS162）。音楽データは図23に示したように、ユーザグループが所有者又は友人であればアクセスを許可される。ユーザグループは所有者及び友人のいずれかである場合には、音楽データへのアクセス許可を通知する（ステッ

プ S 1 6 3)。

【 0 0 8 7 】

受信したデータ種類が地図データならば（ステップ 1 6 4）、ユーザグループは消防署又は修理工場か否かを判別する（ステップ S 1 6 5）。地図データは図 2 3 に示したように、ユーザグループが消防署及び修理工場を除くユーザグループであればアクセスを許可される。ユーザグループは消防署及び修理工場のいずれでもない場合には、地図データへのアクセス許可を通知する（ステップ S 1 6 6）。受信したデータ種類が運行データならば（ステップ 1 6 7）、ユーザグループは所有者、家族又は修理工場か否かを判別する（ステップ S 1 6 8）。運行データは図 2 3 に示したように、ユーザグループが所有者、家族又は修理工場であればアクセスを許可される。ユーザグループは所有者、家族及び修理工場のいずれかである場合には、運行データへのアクセス許可を通知する（ステップ S 1 6 9）。受信したデータ種類が住所録データならば（ステップ 1 7 0）、ユーザグループは所有者か否かを判別する（ステップ S 1 7 1）。住所録データは図 2 3 に示したように、ユーザグループが所有者であればアクセスを許可される。ユーザグループが所有者である場合には、住所録データへのアクセス許可を通知する（ステップ S 1 7 2）。

【 0 0 8 8 】

A S P サーバ 4 はデータベースへのアクセスを許可した場合には、許可した装置又はサーバからの記憶装置 4 a に形成されたデータベースの許可した種類のデータへのアクセスを受け入れる（ステップ S 1 7 3）。また、データベースへのアクセスを許可した場合には、その履歴を履歴データとして記憶装置 4 a 又は図示しない履歴サーバに保存することが行われる。

【 0 0 8 9 】

車載端末装置 1 の記憶装置 2 8 に形成されたデータベースと同様のデータベースを A S P サーバ 4 の記憶装置 4 a に形成されているので、A S P サーバ 4 の記憶装置 4 a にアクセスすることにより、車両 1 4 内の車載端末装置 1 のデータベースにアクセスことと同様のデータを得ることができる。また、A S P サーバ 4 の記憶装置 4 a に記憶されたデータにはデータの種類毎にアクセス権が予め設定

されているので、端末装置やサーバを備えた施設やユーザグループに対して特定の種類のデータだけを与えることができる。更に、ASPサーバ4への不特定のアクセスユーザに対するデータの漏洩を防止することができる。

【0090】

【発明の効果】

以上の如く、本発明によれば、データベースを形成したサーバにクライアント装置からネットワーク回線を介してデータベース中の必要な種類のデータに容易にアクセスすることができる。また、不特定のクライアント装置からのデータベースへのアクセスによるデータの漏洩を防止することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明を適用した通信システムの構成を示すブロック図である。

【図2】

車載端末装置の構成を示すブロック図である。

【図3】

車載端末装置の前面パネルを示す図である。

【図4】

車載端末装置のディスプレイ画面の表示例を示す図である。

【図5】

車載端末装置のディスプレイ画面の表示例を示す図である。

【図6】

車載端末装置のディスプレイ画面の表示例を示す図である。

【図7】

車載端末装置のディスプレイ画面の表示例を示す図である。

【図8】

アクセスポイント設定ルーチンを示すフローチャートである。

【図9】

通信制御ルーチンを示すフローチャートである。

【図10】

図 9 の通信制御ルーチンの続き部分を示すフローチャートである。

【図 1 1】

図 1 0 の通信制御ルーチンの続き部分を示すフローチャートである。

【図 1 2】

緊急データ通信設定ルーチンを示すフローチャートである。

【図 1 3】

車両データ通信設定ルーチンを示すフローチャートである。

【図 1 4】

更新テーブルを示す図である。

【図 1 5】

音楽データ通信設定ルーチンを示すフローチャートである。

【図 1 6】

運転者データ通信設定ルーチンを示すフローチャートである。

【図 1 7】

地図データ通信設定ルーチンを示すフローチャートである。

【図 1 8】

運行データ通信設定ルーチンを示すフローチャートである。

【図 1 9】

住所録データ通信設定ルーチンを示すフローチャートである。

【図 2 0】

アクセス権テーブルの内容を示す図である。

【図 2 1】

アクセス許可動作を示すフローチャートである。

【図 2 2】

図 2 1 のアクセス許可動作の続き部分を示すフローチャートである。

【図 2 3】

アクセス権テーブルの内容を示す図である。

【図 2 4】

アクセス許可動作を示すフローチャートである。

【図 2 5】

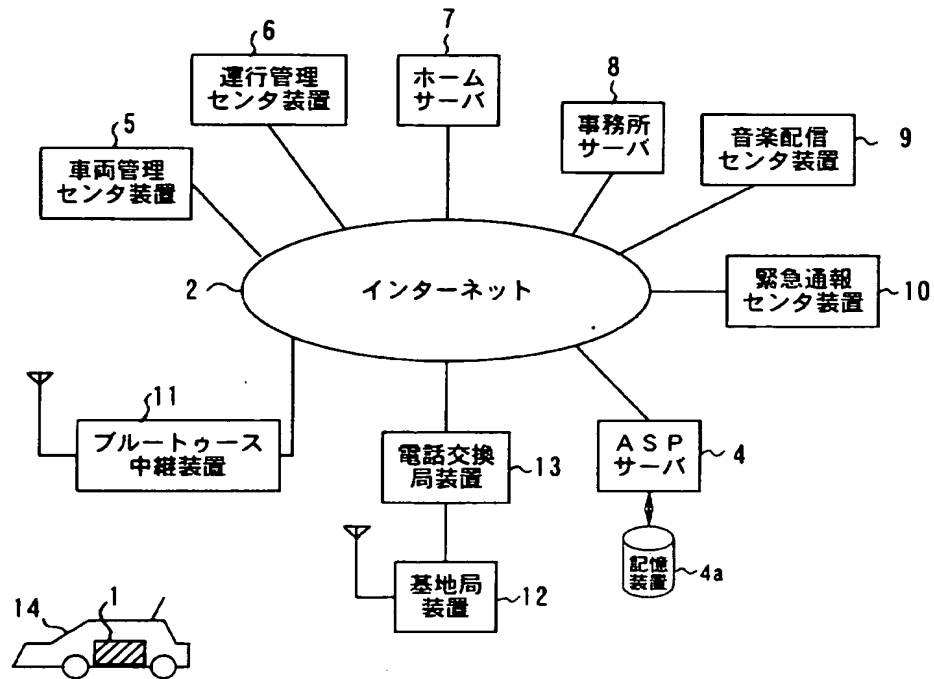
図 2 4 のアクセス許可動作の続き部分を示すフローチャートである。

【符号の説明】

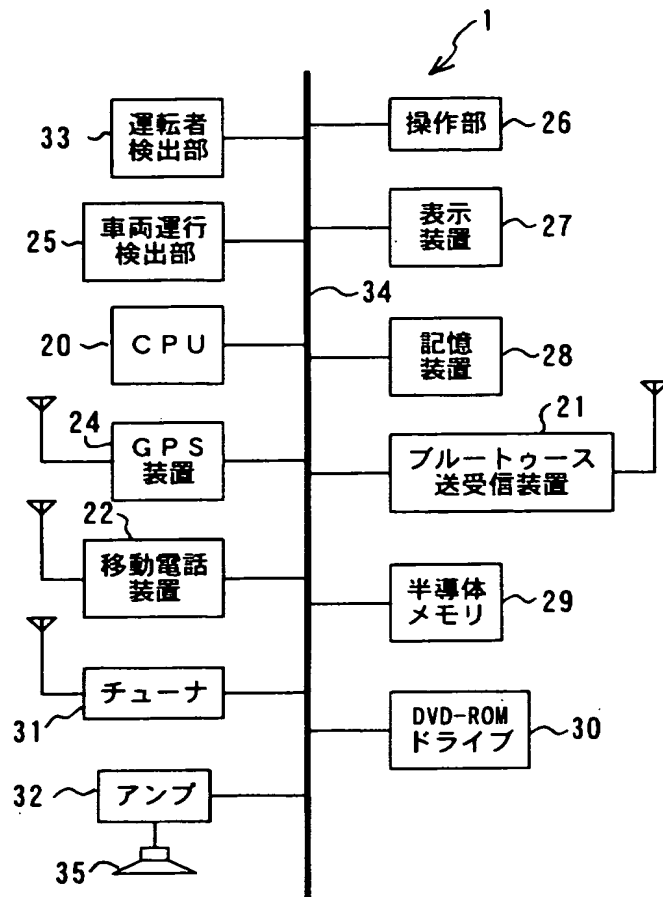
- 1 車載端末装置
- 2 インターネット
- 4 A S Pサーバ
- 5 車両管理センタ装置
- 6 運行管理センタ装置
- 7 ホームサーバ
- 8 事務所サーバ
- 9 音楽配信センタ装置
- 1 0 緊急通報センタ装置
- 1 1 ブルートゥース中継装置
- 2 0 C P U
- 2 1 ブルートゥース送受信装置
- 2 2 移動電話装置
- 2 4 G P S装置
- 2 6 操作部
- 2 8 記憶装置
- 3 0 D V D - R O Mドライブ

【書類名】 図面

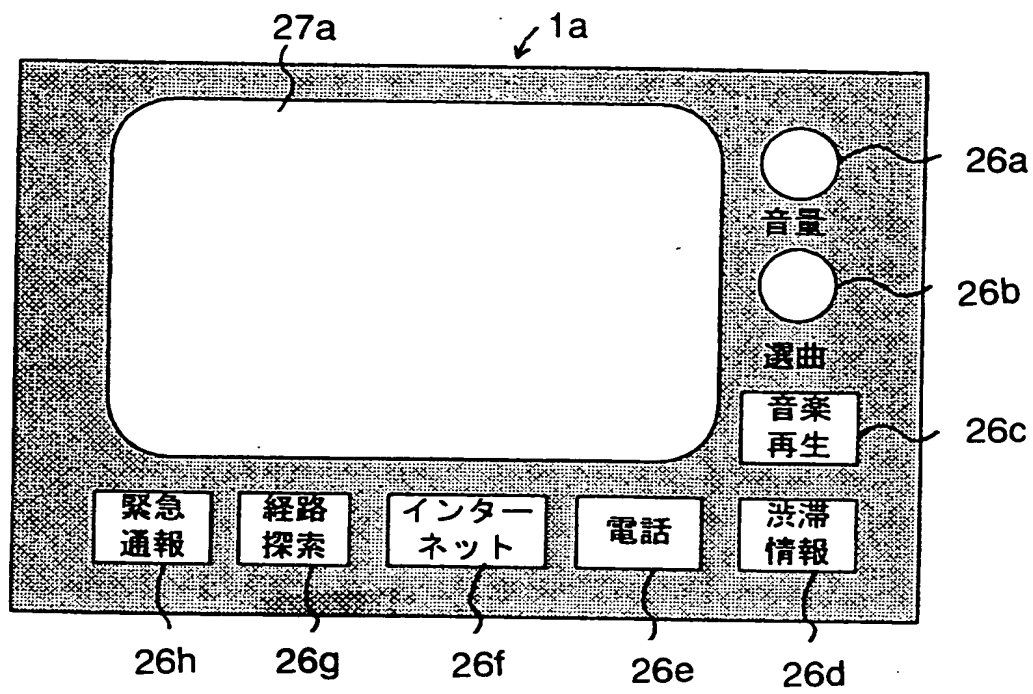
【図 1】



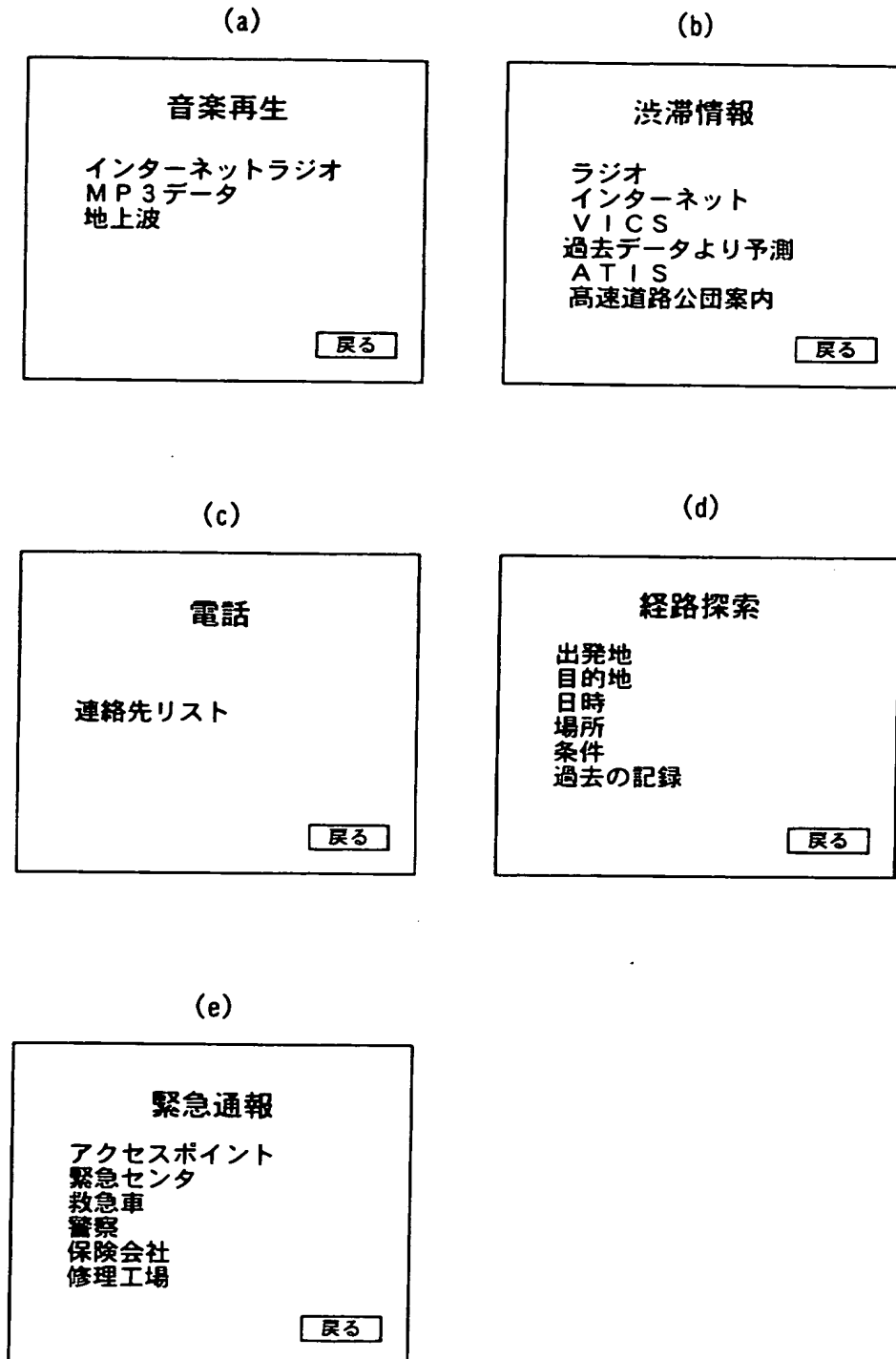
【図 2】



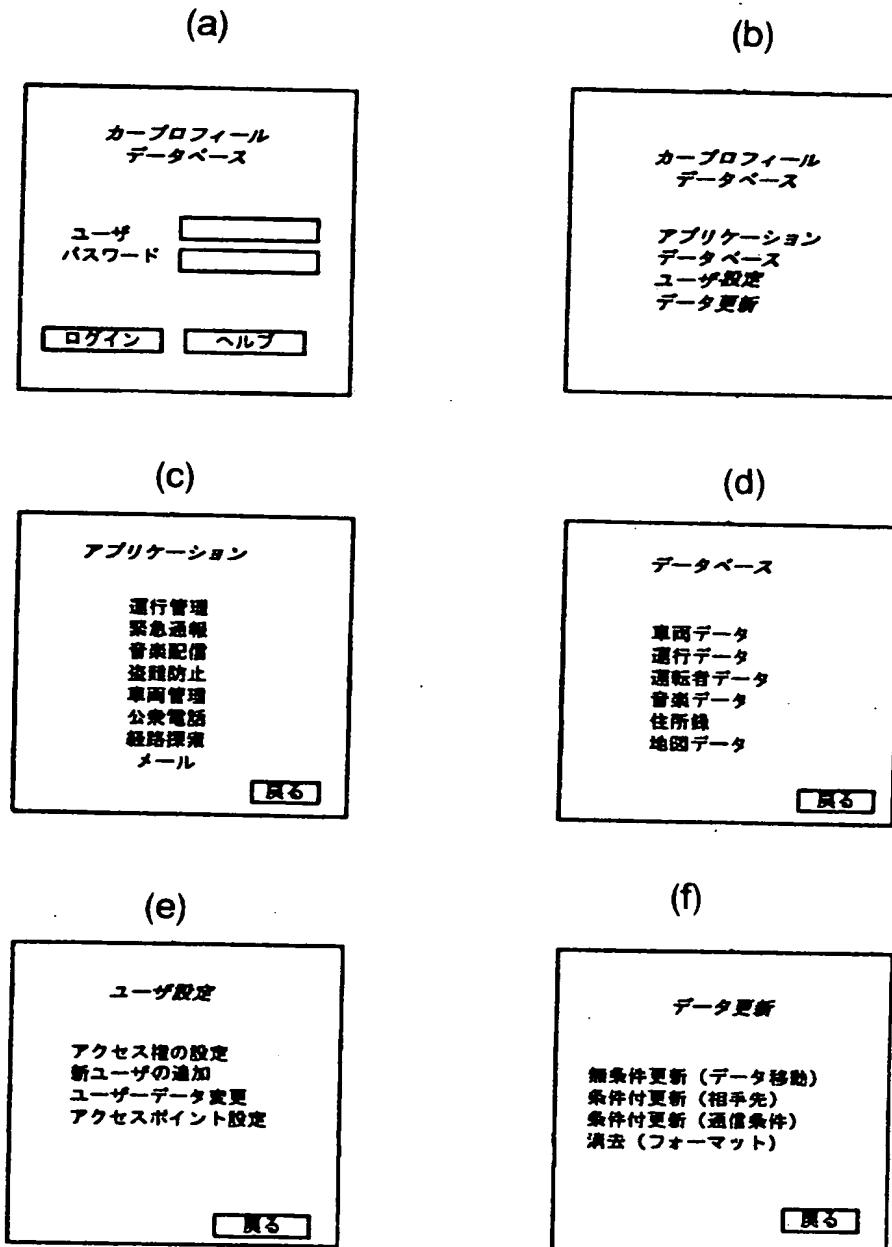
【図3】



【図4】



【図 5】



【図 6】

(a)

運行管理

MAP

(e)

車両管理

ガソリン補給
日時 給油 場所 燃費
オイル交換
部品
点検 (メンテナンス情報)

(b)

緊急通報

サービスセンタ
連絡先
メール送信アドレス

送出データ:
車両、運転者データ

(f)

経路探索

出発地
目的地
日時
場所
条件
過去の記録

(c)

音楽配信

インターネットラジオ

CH	URL
1	*****
2	*****
3	*****
4	*****

番組予約

日時	URL
**	*****

(g)

メール

氏名	アドレス
****	*****
****	*****
****	*****
****	*****

(d)

盗難防止

室内異常センサ
走行地域
使用時間
運転者
連絡先
送出データ:
車両、現在地、経路

(h)

公衆電話

氏名	電話
****	*****
****	*****
****	*****
****	*****

【図7】

(a)

車両データ

車体番号

色

型式

所有者

メンテナンス情報

(d)

音楽データ

NO.	題名	時間
1	*****	****
2	*****	****
3	*****	****
4	*****	****
5	*****	****
6	*****	****

(b)

運行データ

現在地

東経 *****

北緯 *****

日時 時刻 場所 速度 状態

(e)

地図データ

地図名	更新日
関東南部	**, **
関東北部	**, **
東京都内	**, **
川越市内	**, **
埼玉県	**, **
新潟県	**, **

(c)

運転者データ

名前

血液型

性別

年齢

身長

体重

連絡先

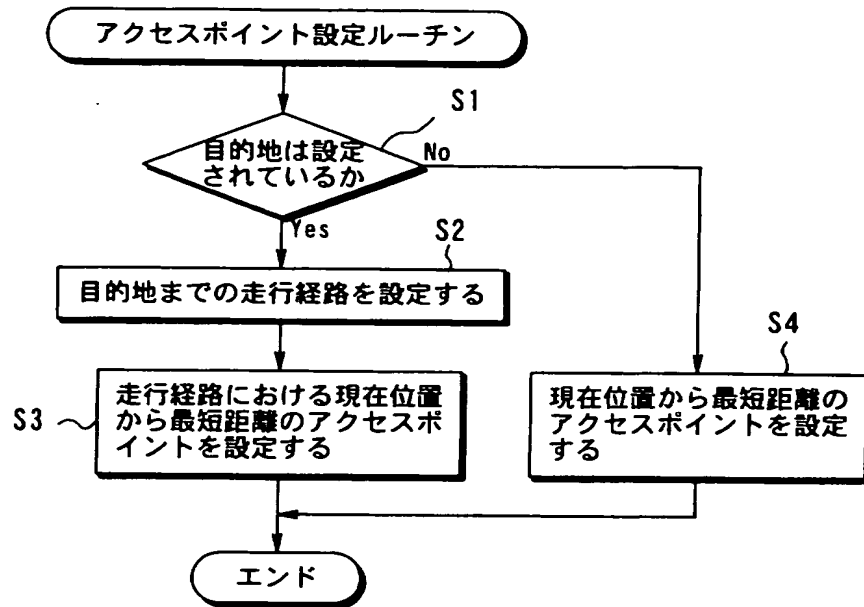
顔

(f)

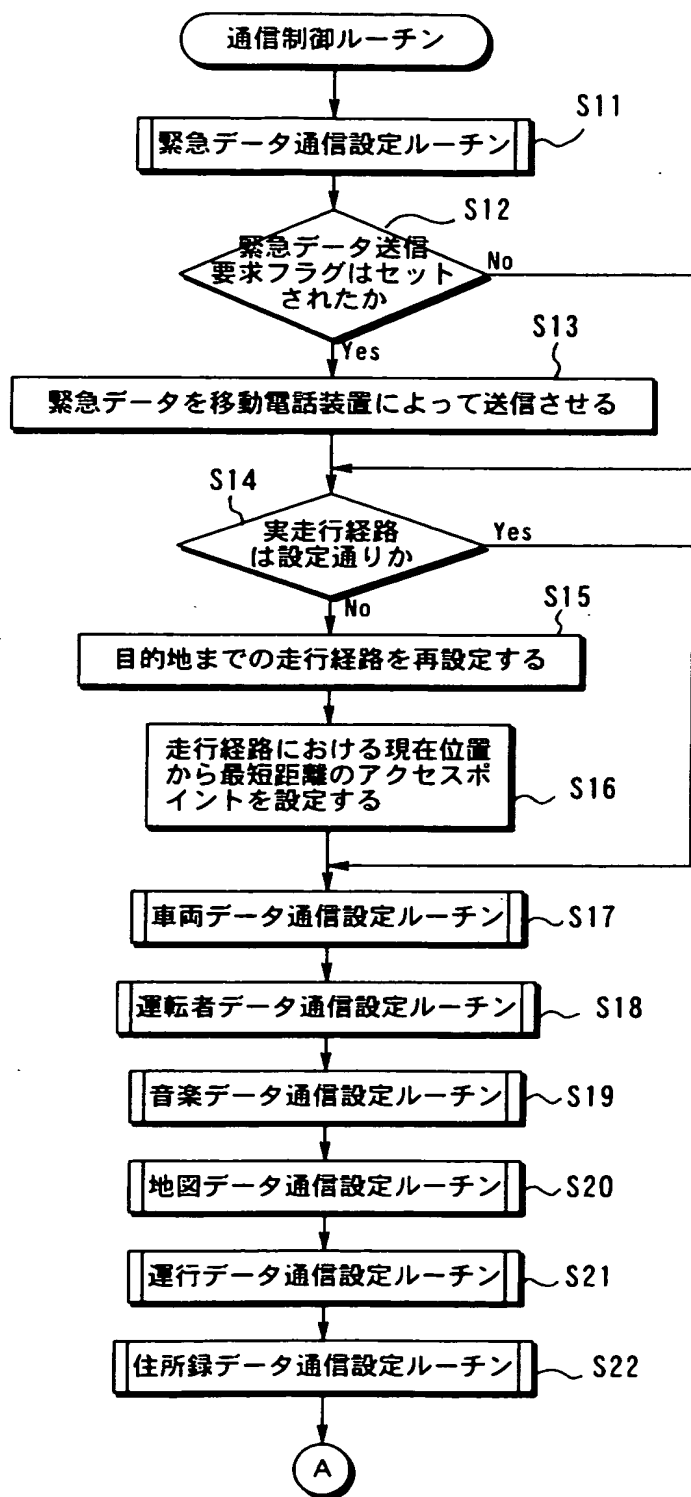
住所録

氏名	電話	アドレス
*****	*****	*****
*****	*****	*****
*****	*****	*****

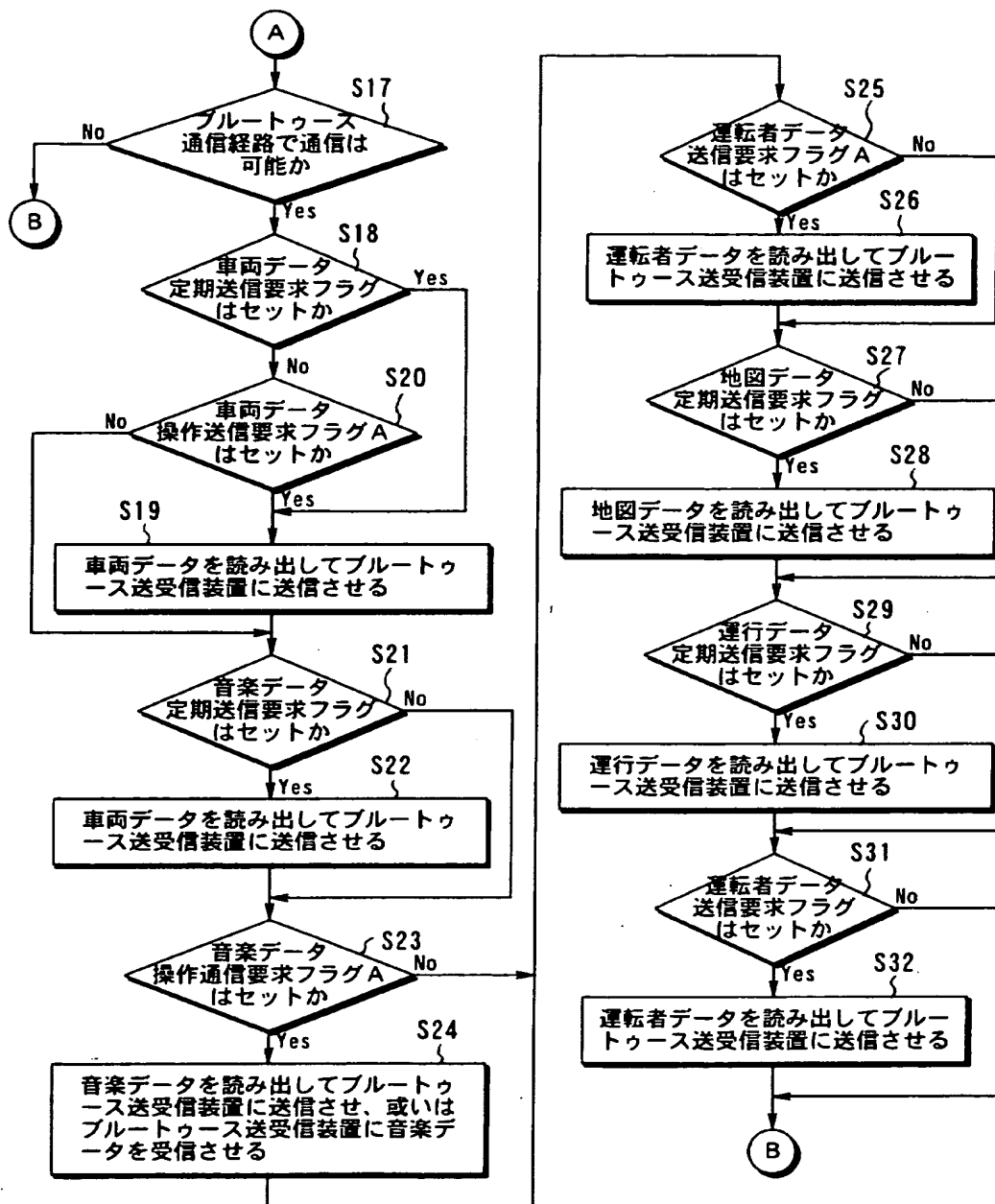
【図 8】



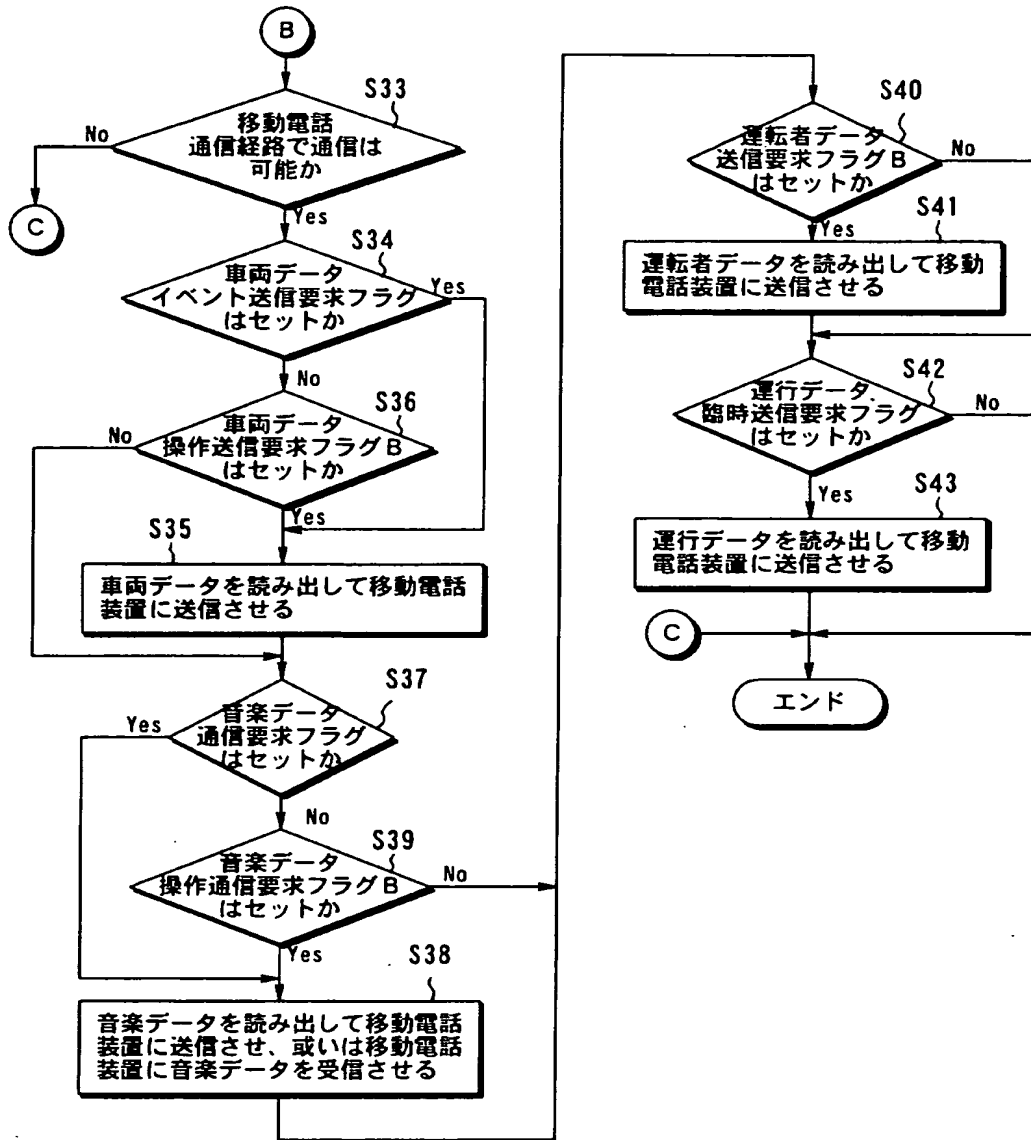
【図 9】



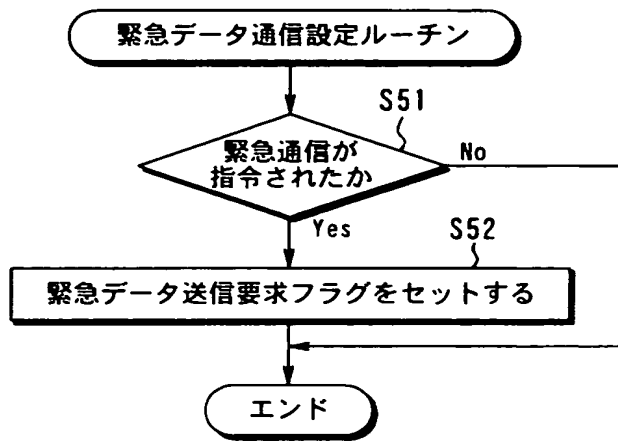
【図 10】



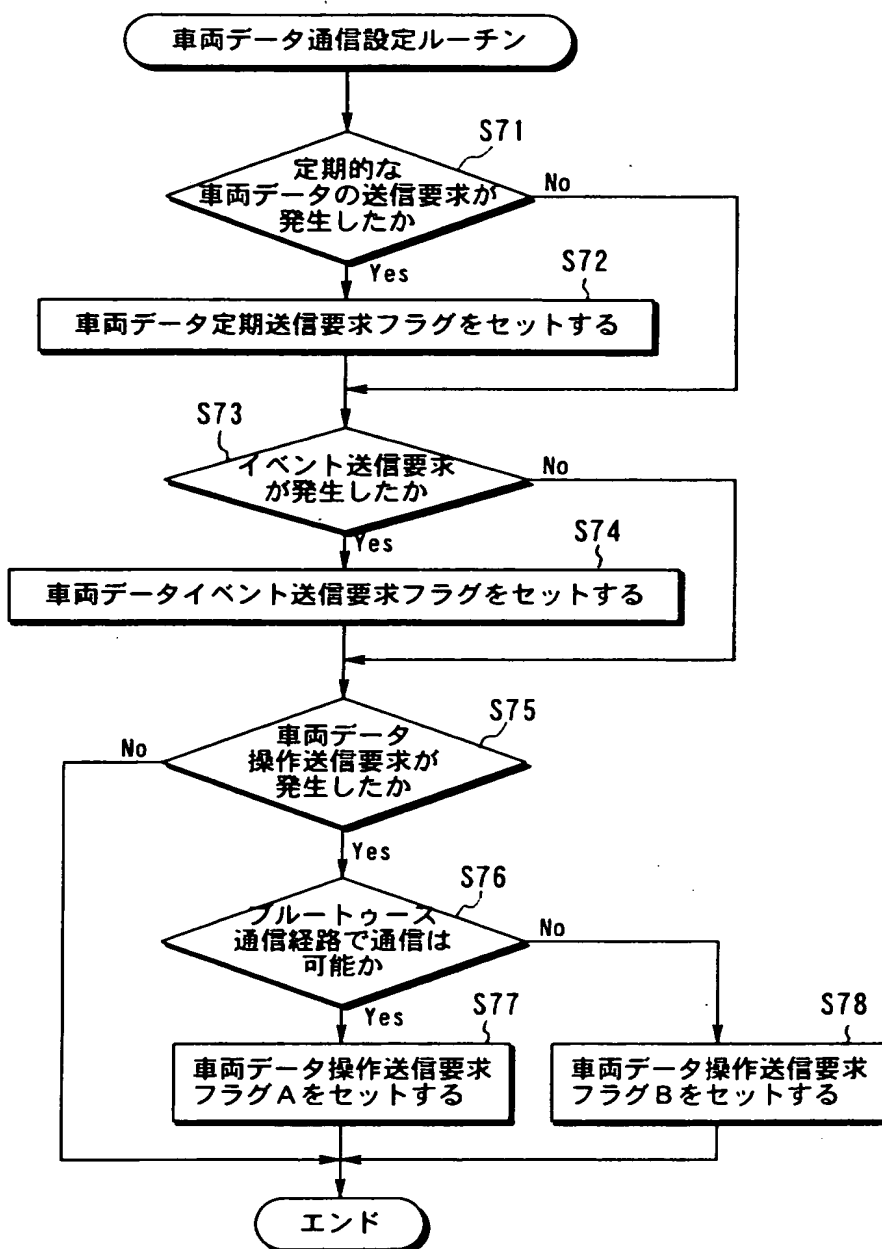
【図 11】



【図 1 2】



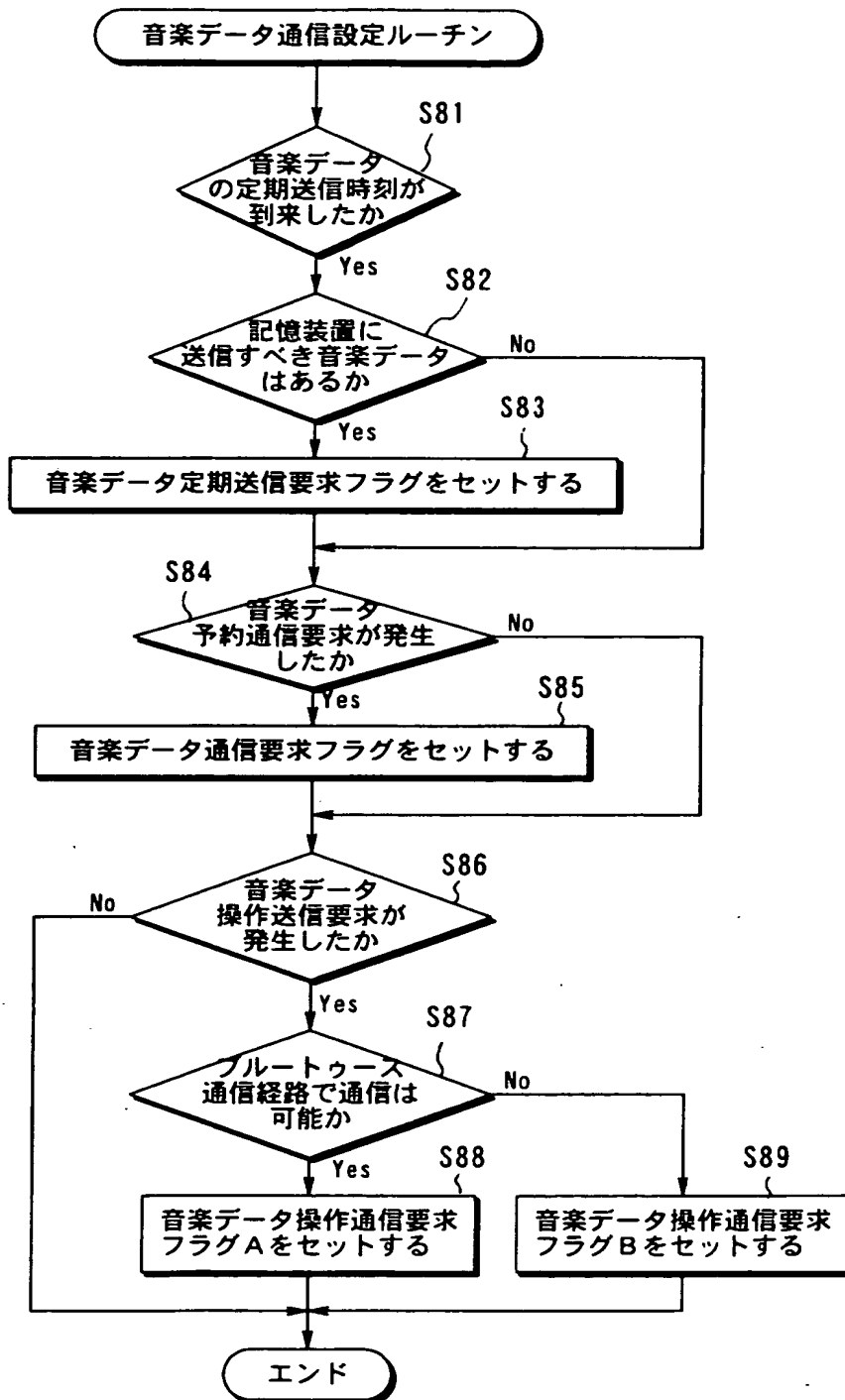
【図 1 3】



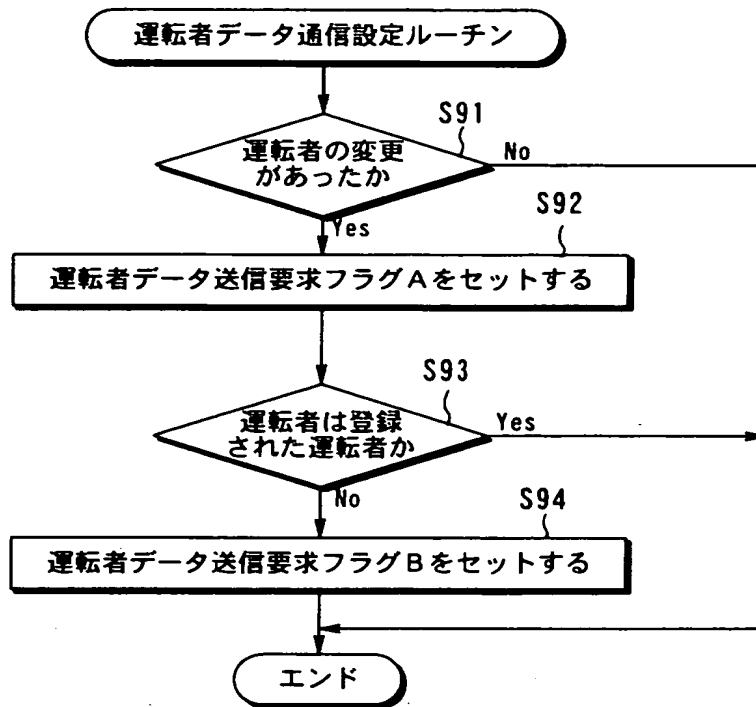
【図 1 4】

種類	更新サイクル	前回の更新日時
車両データ	1 週間	XXXX年YY月ZZ日12時10分
運転者データ	車両スタート時	XXXX年YY月ZZ日11時03分
音楽データ	1 日 2 回	XXXX年YY月ZZ日12時00分
地図データ	月 1 回	XXXX年YY月YZ日09時45分
運行データ	1 0 分毎	XXXX年YY月ZZ日12時50分
住所録データ	毎日 1 回	XXXX年YY月ZY日10時10分
緊急データ	緊急発生時	XXXX年AY月GH日17時30分

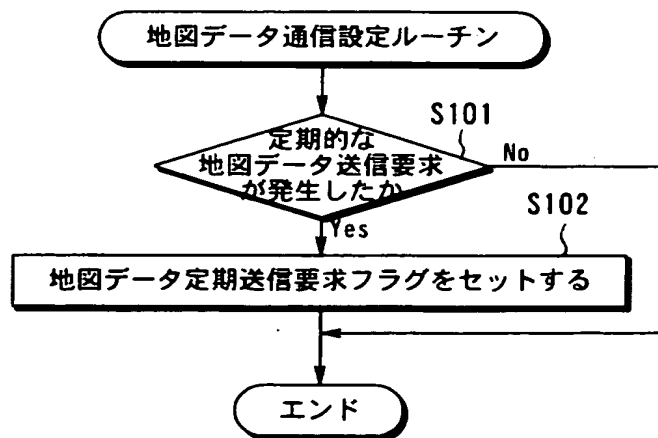
【図 1 5】



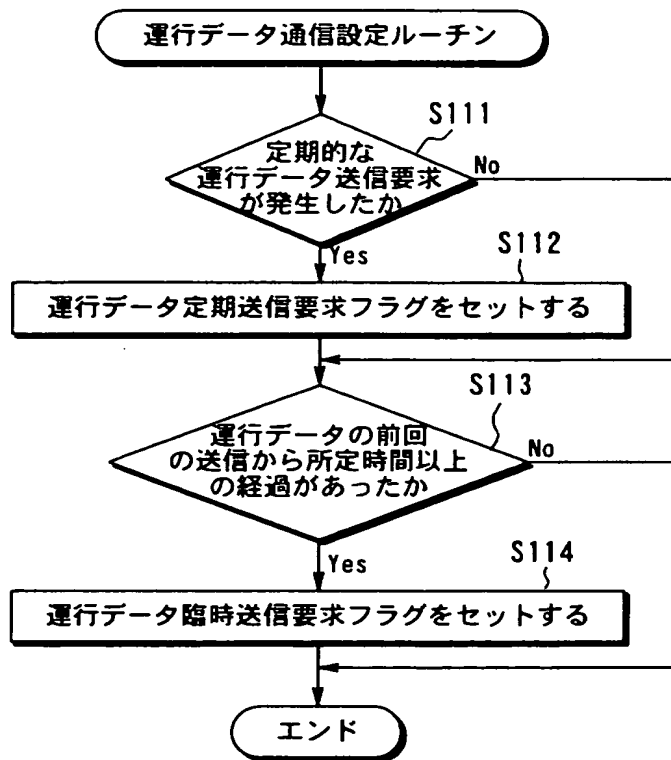
【図 16】



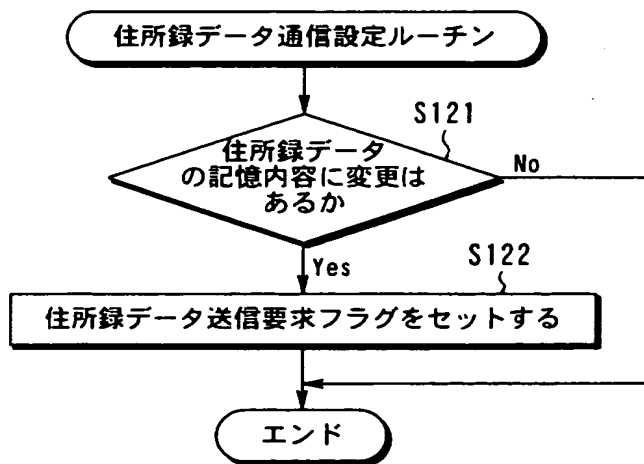
【図 17】



【図 18】



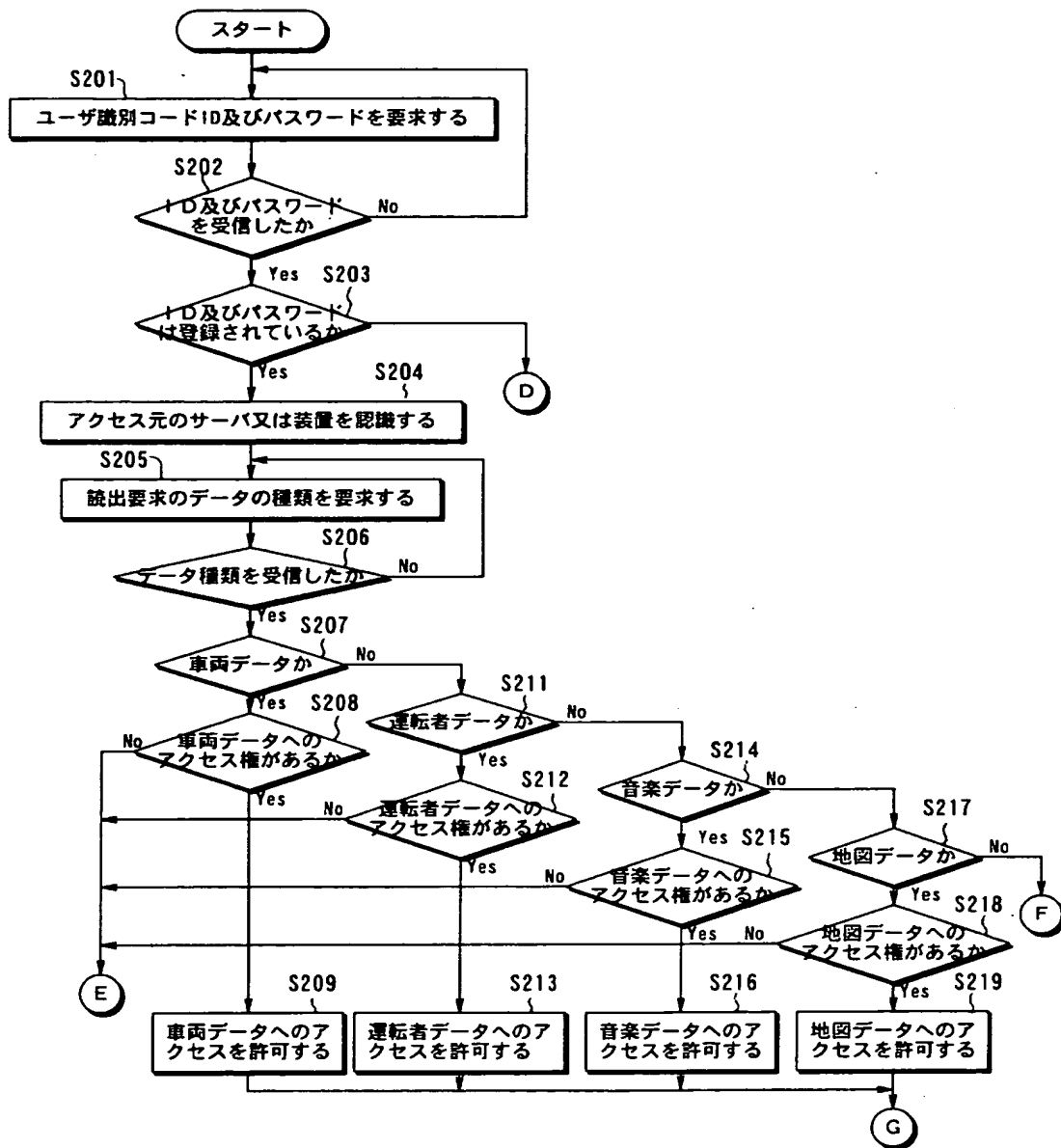
【図 19】



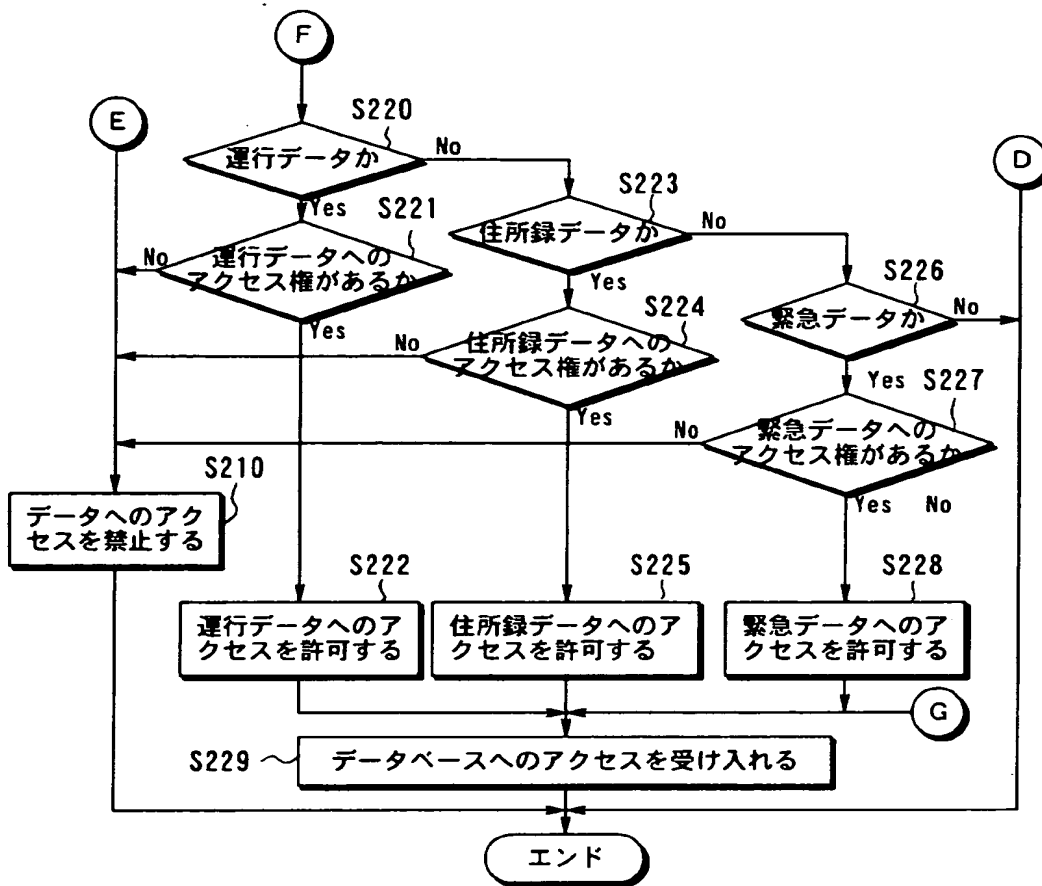
【図 20】

装置又は 種類 サーバ	車両管理 センタ装置	運行管理 センタ装置	ホーム サーバ	事務所 サーバ	音楽配信 センタ装置	緊急通報 センタ装置
車両データ	○	○	○	○	×	○
運転者データ	○	○	○	○	○	○
音楽データ	×	×	○	○	○	×
地図データ	×	○	○	○	×	○
運行データ	○	○	○	×	×	○
住所録データ	×	×	○	○	×	×
緊急データ	×	×	○	×	×	○

【図21】



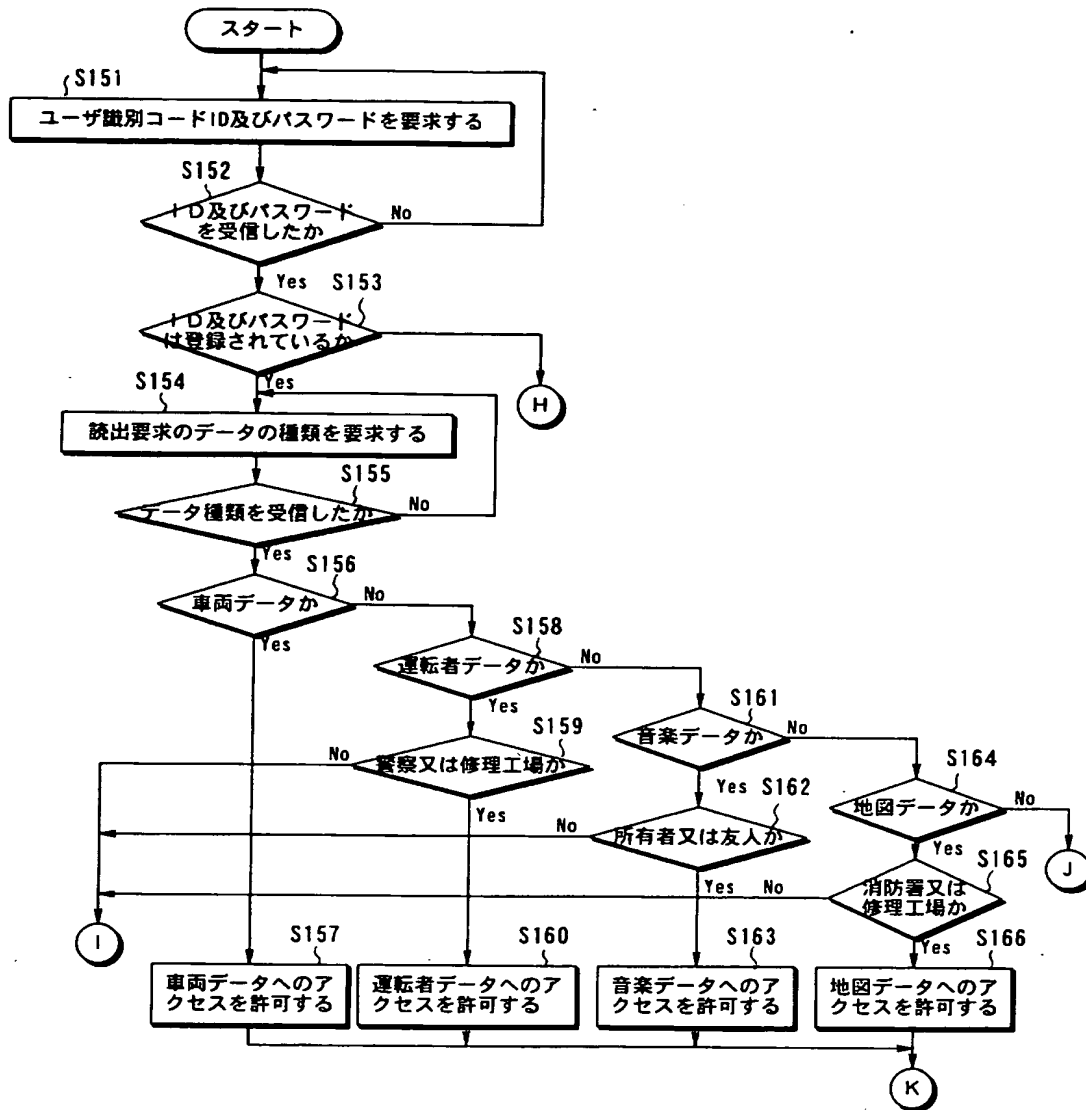
【図 2 2】



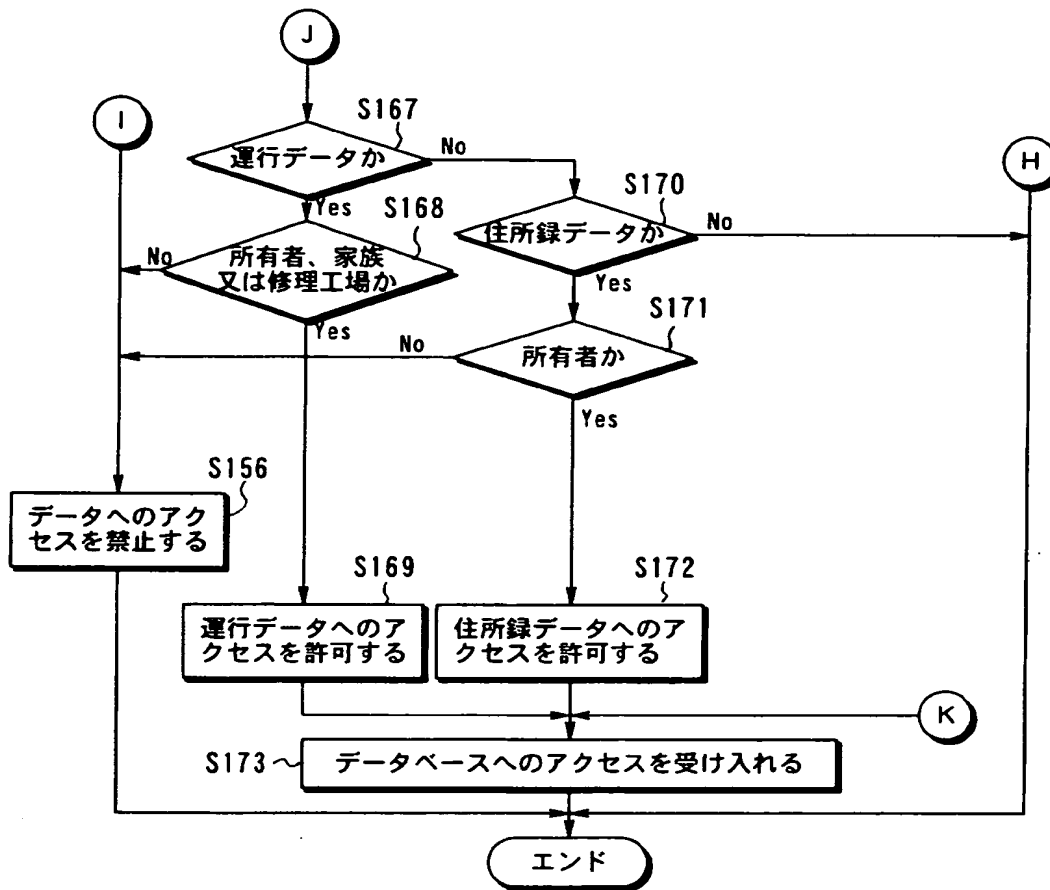
【図 2 3】

ユーザグループ 種類	所有者	家族	友人	保険会社	警察	消防署	修理工場
車両データ	○	○	○	○	○	○	○
運転者データ	○	○	○	○	×	○	×
音楽データ	○	×	○	×	×	×	×
地図データ	○	○	○	○	○	×	×
運行データ	○	○	×	×	×	×	○
住所録データ	○	×	×	×	×	×	×

【図24】



【図 2 5】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 データベースを形成したサーバにクライアント装置からネットワーク回線を介してデータベース中の必要な種類のデータに容易にアクセスすることができるデータ通信システムを提供する。

【解決手段】 複数のクライアント装置各々に対応してアクセス可能なデータの種類の示すアクセス権情報をサーバにおいて保持し、ネットワーク回線を介して送られ来たデータ読出要求をサーバで受信すると、複数のクライアント装置のうちのその受信データ読出要求を送信した1のクライアント装置を識別し、受信データ読出要求に対応したデータが1のクライアント装置からアクセス可能な種類のデータであるか否かをアクセス権情報に応じて判別し、その判別結果がアクセス可能な種類のデータならば、1のクライアント装置に対してサーバの第1記憶装置のデータベース中の受信データ読出要求に対応したデータへのアクセスを許可する。

【選択図】 図1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000005016]

1. 変更年月日 1990年 8月31日
[変更理由] 新規登録
住 所 東京都目黒区目黒1丁目4番1号
氏 名 パイオニア株式会社